

点検・整備チェックリスト

(販売店にチェック・記入を依頼してください。
定期点検・整備の料金は、お買い上げの販売店までお問い合わせください。)

✓:異状無し A:調整、注油 △:修理 ×:交換 C:掃除その他 —:装着されていない部品

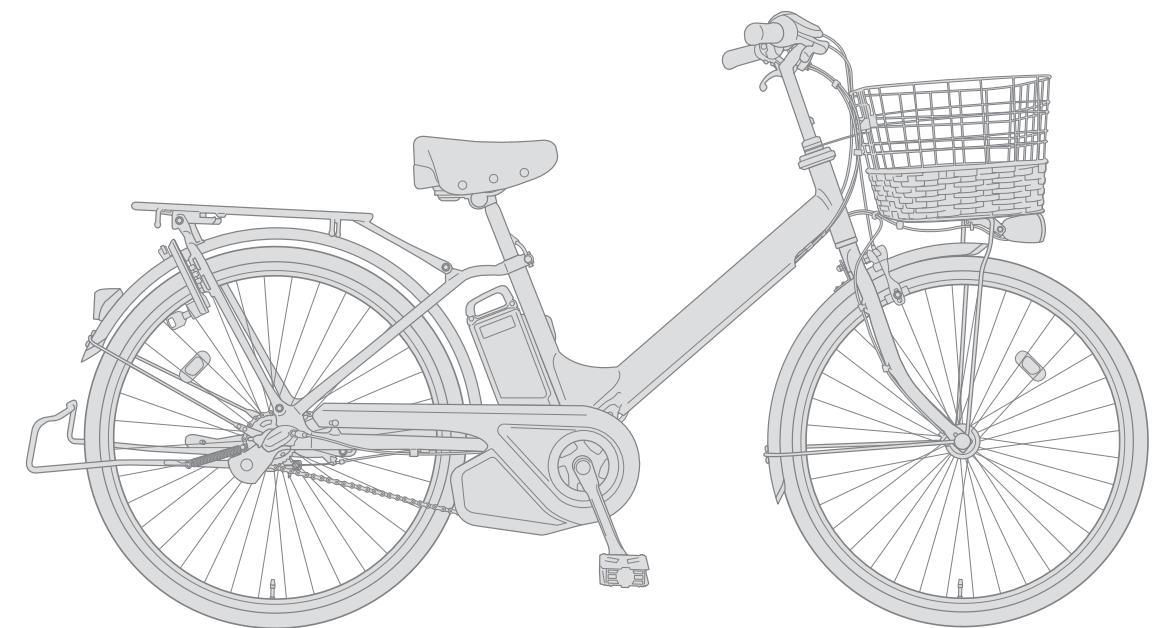
点検の箇所	点検項目	販売時	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
			2か月	6か月	1年	1年半	2年	2年半	3年
フレーム・フロントフォーク	変形、折損、ヒビ割れは無い								
	ヘッド、ハンガー小物にがたつきや摩耗は無い								
ハンドル	固定は確実か、高さ、ハンドルの挿入量は適正か								
	変形、折損、軽く回転するか								
どろよけ	変形、取り付けは適正か								
キャリヤ	変形、がたつき、折損は無い								
車輪	固定は確実か、フレーム、フロントフォークに接触していない								
	タイヤ								
リム	切傷、摩耗は無い、空気圧は適正か								
スポーク	変形、振れ、摩耗(アルミリム)は無い								
ハブ	緩み、変形、切損、外れは無い								
クラック	ハブナットの緩み、玉押しのがたつきは無い								
	ギヤ板の振れ、ヒビ入り、曲がり、がたつきは無い、締め付けは十分か								
ペダル	固定は確実か、取り付け部(クランク側)にバリは無い								
	軸の回転は正常か、変形、カシメ、ねじの緩み、がたつき、折損は無い								
ブレーキ	利き具合は適正か								
	レバーの引きしろに余裕はあるか、ワイヤ類にさびやほつれは無い								
	ブレーキゴム類(ブレーキブロック、パッド、ライニング)の減りは無い								
変速機	作動は確実か								
ベルト	ヒビ入り、歯欠け、折損は無い、張りは適正か								
チェーン	油切れ、たるみは無い、ギヤとの噛み合わせは適正か								
サドル	固定は確実か、高さ、シートポストの挿入量は適正か								
	取り付け位置、がたつき、損傷は無い								
ライト	点灯、照射は正常か、破損は無い、コード切れは無い								
リフレクター	汚れ、がたつき、破損は無い、点灯(テールランプ付)は正常か								
スタンド	作動は正常か、がたつき、変形、折損は無い								
ベル	作動は正常か、変形、緩みは無い、よく鳴るか								
錠	作動は正常か、変形、緩みは無い								
その他	各部のねじの緩み、損傷は無い								
注油箇所	チェーン、ワイヤ、変速機、ブレーキレバー、スタンドの支点、バッテリーロックキー穴、錠前キー穴								
実施店	実施者氏名	実施日	年	年	年	年	年	年	年
			/	/	/	/	/	/	/
保証書に印字されている品番および車体番号を転記してください		確認印	印	印	印	印	印	印	印
品番	車体番号								

Panasonic®

取扱説明書 電動アシスト自転車

ティモ・A

品番
BE-FTA631



保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。
- ご使用まえに「安全上のご注意」(4～19ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

パナソニックの会員サイト「**CLUB Panasonic**」で「**商品登録**」をお願いします

特典

- お持ちの家電商品、消耗品情報が一元管理できる!
- 登録商品に関するお知らせやサポート情報が入手できる!
- 登録者限定のキャンペーンに参加できる!

詳しくはこちら
<https://club.panasonic.jp/aiyo/>



パナソニック サイクルテック株式会社

〒582-8501 大阪府柏原市片山町13番13号

はじめに

- この自転車は、一般乗車用として設計されています。新聞配達などの業務用としてご使用にならないでください。また、日本国内以外の交通法規には適合していませんので、日本国内以外でご使用にならないでください。
- 必ず、販売店で防犯登録を行ってください（法令で義務付けられています）。

- 製品をほかの人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡しください。
- お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗りかたをご指導ください。
- 本書のイラストはイメージ図を使用していますので、一部実車と異なる場合があります。

なめらかな乗りごこちで、お買い物や通学にうれしい！

漕ぎ出し 軽やか

重たい荷物を載せたり、急な坂道での発進にアシスト力を発揮。

毎日使うのに 便利

充電の手間が少ない
大容量
16Ah バッテリー搭載

カルパワー ドライブユニット

漕ぎ出しも、坂道もパワフル
で軽やかな乗りごこちのカル
パワーアシスト

電動アシストが 切れても安心

電動アシストが切れても
昼間は一般の自転車と同様、
快適に走行できます。

もくじ

ご使用のまえに

- 安全上のご注意…………… 4
- 使用上のお願い…………… 20
- 各部のなまえとはたらき …… 22
 - 付属品…………… 23

乗るまえに

- 乗るまえの点検と調整 …… 28
- 充電しましょう …… 36
 - バッテリーの残量について… 40
- 荷物やお子様を乗せるとき … 42

乗りかた

- さあ、乗りましょう！ …… 43
- ブレーキのかけかた …… 46
- 変速のしかた …… 47
- アシストの強さを変える …… 48
- 走行できる距離の目安 …… 50

乗り終わったら

- 駐輪・施錠のしかた…………… 52

必要なとき

- お手入れについて…………… 54
- 注油について…………… 55
- 盗難補償優遇制度について… 56
- 故障かな？…………… 57
- バッテリーについて …… 61
- 運搬/保管/廃棄について …… 63
- 仕様…………… 64
- 別売品（アクセサリー） …… 66
- 定期点検について…………… 68
- 自転車安全基準/ BAA マーク/
点検整備済 TS マークのご紹介… 69
- 保証とアフターサービス …… 71

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



危険 「死亡や重傷を負うおそれ大きい内容」です。

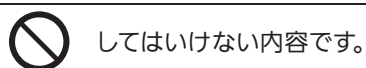


警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。



注意 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています(次は図記号の例です)。



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



気を付けていただく内容です。



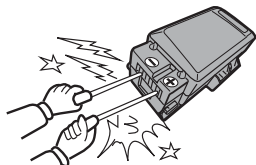
危険

バッテリーについて



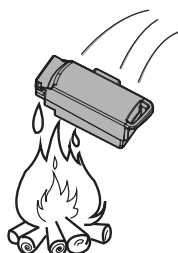
禁止

■(+)と(-)を金属などで接触させない



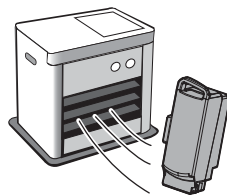
(発熱、発火、破裂の原因)
⇒ネックレス、ヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管しないでください。

■火への投入、加熱をしない



(発熱、発火、破裂の原因)

■火のそばなど高温の場所で充電・使用・放置しない



(発熱、発火、破裂の原因)

■落下させない

(発熱、発火、破裂の原因)



禁止

■当社電動アシスト自転車専用の充電式バッテリーです。この機器と専用アダプターでの接続以外は使用しない

(発熱、発火、破裂の原因)
⇒別売品(66ページ)のUSB出力アダプターを介してのUSB対応機器への給電は可能です。

■専用の充電器以外は使用しない

(発熱、発火、破裂の原因)

■クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしない



(発熱、発火、破裂の原因)

■再生・リサイクルバッテリーは使用しない

(発熱、発火、破裂の原因)

充電器について



禁止

■当社電動アシスト自転車バッテリーの充電以外の使用は絶対にしない

(バッテリーの液漏れ、発熱、破裂によるけがの原因)



警告

バッテリーについて



禁止

■水を入れたり、水中に投下したりしない



(端子部から水が入ると発熱、発火、破裂の原因)
⇒バッテリー内部に明らかに水が浸入した場合は、使用を停止し、販売店で点検を受けてください。

■傷ついたまま使用しない

(ケースなど、破損したまま使用すると液漏れのおそれがあり、目に入った場合失明するおそれ。また、水の浸入により、発煙・発火のおそれ)

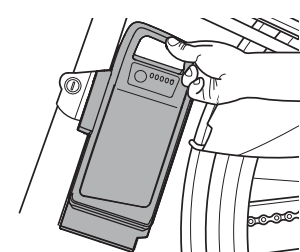
■大雨などで自転車本体(バッテリー部)が水につかった場合、使用しない

(不意にアシストが停止する場合があります、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)
⇒本自転車は生活防水性能を備えていますが、大雨などによりバッテリー内部に水が入った場合は使用を停止し、販売店で点検を受けてください。



必ず守る

■確実に自転車に装着されているか確認する



(走行中に脱落し転倒したり、足の上に落下したり、けがのおそれ)
⇒必ず手前に引いて外れないか確認してください。

充電器について



禁止

■電源コードを充電器本体に巻きつけて保管しない

(電源コードやプラグが断線し、傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因)

■充電中はカバーをしたり、上に物を置いたりしない

(内部が発熱し、火災のおそれ)

■充電中は引火のおそれがあるものを近づけない

(スパークし、火災や爆発の原因)

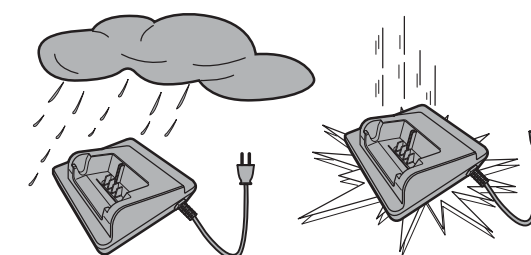
■分解、改造は絶対にしない



(充電時、バッテリーの液漏れ、発熱による火災のおそれ)

■以下のようなことはしない

●衝撃を与えること ●落下 ●水ぬれ
●高湿度な場所(浴室・洗面所や水がかかる場所)での使用



(発熱、発火、感電のおそれ)
⇒水にぬれた場合には、内部基板に水が浸入していることがありますので、使用しないでください。

安全上のご注意(つづき)



警告

充電器について



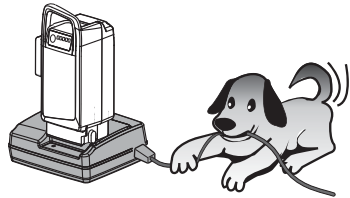
禁止

■充電端子を金属でショートさせたり、ボタン・コイン電池を接触させない



(発熱、発火、感電のおそれ)
⇒充電しないときは、端子カバー(別売品) 66 ページ)をかぶせておくことをお勧めします。

■幼児やペットが触れる所に放置しない



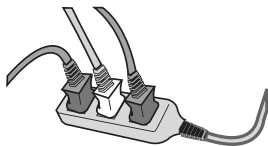
(幼児やペットがコードを傷め、感電・故障・火災の原因)

■電源コードや電源プラグ・ケースを破損するようなことはしない(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど)



(傷んだまま使用すると、感電・故障・火災の原因)
⇒電源コードなど単体での修理・交換はできません。電源コードなどが傷んだ場合、販売店にご相談ください。

■コンセントや配線器具の定格を超える使用いかたや、家庭用の交流 100 V 以外での使用はしない



(たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因)



ぬれ手禁止

■ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

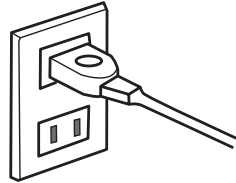


(感電のおそれ)



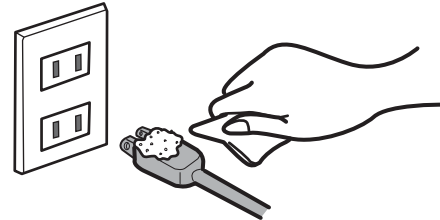
必ず守る

■電源プラグは根元まで確実に差し込む



(接触不良による感電や火災の原因)

■充電端子や電源プラグのほこりなどは定期的に取り



(ほこりがたまる、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因)
⇒電源プラグを抜き、乾いた布で拭いてください。

■充電中に次の異常を感じたら充電を中止する(異音・異臭・煙の発生など)

(火災や爆発の原因)
⇒充電器の電源プラグを抜き、バッテリーを取り外してください。



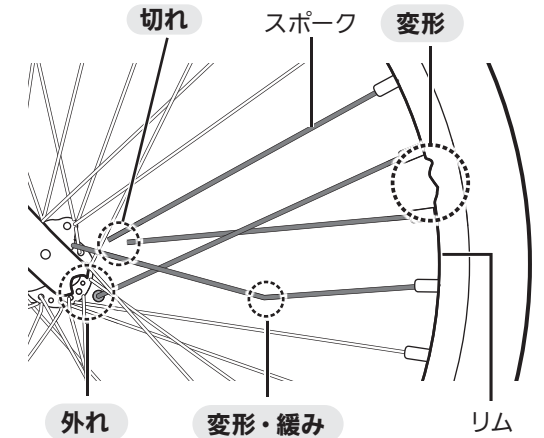
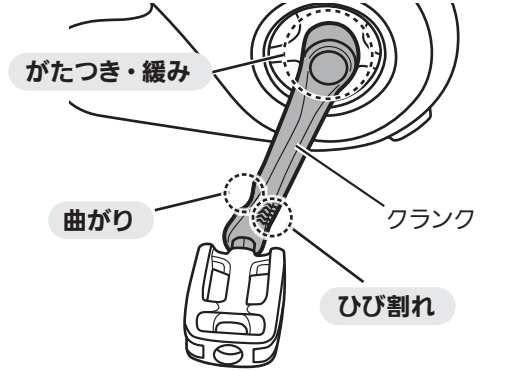
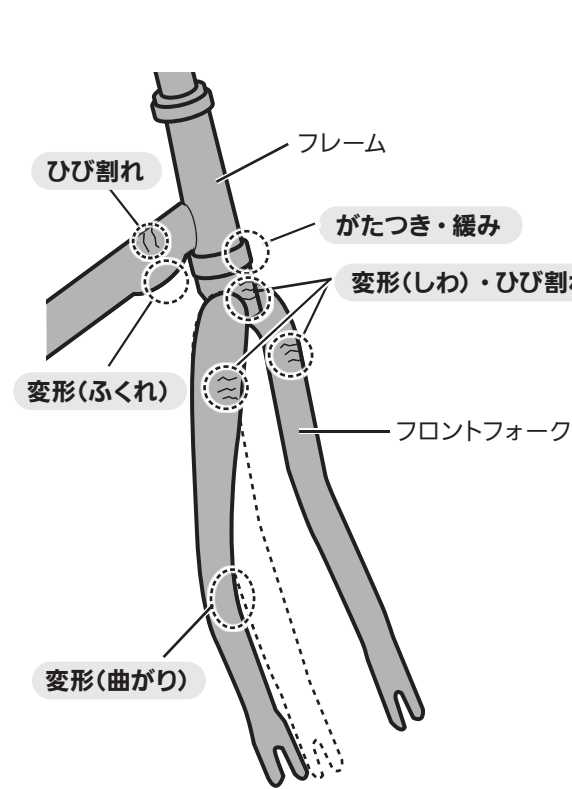
警告

自転車本体について



禁止

■各部にがたつきや緩みおよび、変形・ひび割れなどの異常があるときは乗らない



(折れや固定の緩みにより、転倒や衝突によるけがのおそれ)

ひび割れや変形などの異常を見つけたら、すぐに乗るのを止めて、販売店で点検、交換をしてください。
⇒フロントフォークは衝突などの強い力を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒など強い衝撃が加わったあとは、フロントフォークに変形やひび割れなどの異常が無いか点検してください。

⇒スポークが 1 本でも切れたまま使用を続けると、ほかのスポークに負担がかかり寿命が短くなります。切れ・変形・緩みのあるスポークは直ちに交換してください。できれば、すべてのスポークを交換されることをお勧めします。

⇒ハンドルやサドルを締め付けてもがたつき・緩み・ずれがあるとき、またハンドルの回転が重い・引っ掛かりがあるときは、すぐに乗るのを止め、販売店で点検してください。

■調整後の締め付け・固定を確認せずに乗らない

●車輪 / サドル / バッテリーライト / リヤキャリア / ハンドル / フロントフォーク / クランク など
(転倒や部品やものが落下し、けがのおそれ)



必ず守る

■次の様ときは外観上異常が無くても販売店で点検を受ける

●車輪が変形するような衝突や段差の乗り上げ・落下をしたとき
●ペダルやクランクに強い衝撃が加わるような衝突や転倒をしたとき
(ブレーキの動作不良、フレーム・フロントフォークの折損、駆動ユニットの異常動作により転倒し、けがのおそれ)

■定期点検の時期以外でも、激しい使用後は常に点検をする(受ける)

(異常や破損によるけがのおそれ)

安全上のご注意(つづき)



警告

自転車本体について



■改造や分解はしない

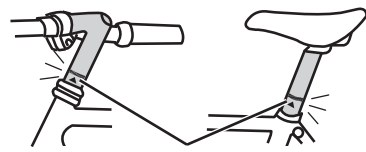


(部品の破損や、ブレーキが利かなくなって転倒や衝突によるけがのおそれ)

■回転部(車輪・チェーンなど)に手や足を近づけない

(車輪やチェーンに巻き込まれ、けがのおそれ)
⇒幼児や児童も近づけないようにご注意ください。

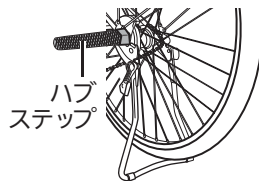
■サドルやハンドルは「はめ合わせ限界標識」が見える状態で乗らない



はめ合わせ限界標識

(シートポストやハンドルステムの折れにより、転倒や衝突によるけがのおそれ)
⇒ハンドルの高さ調整は、販売店にご相談ください。

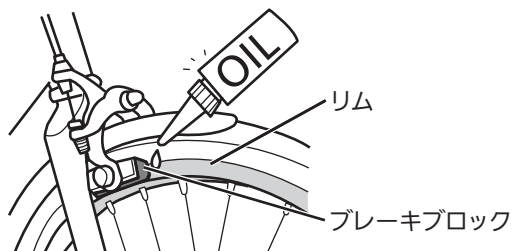
■ハブステップなどの突出物を装着しない



ハブステップ

(歩行者などに危害を及ぼすおそれ)

■注油禁止場所(リムやブレーキブロックのゴム部など)に注油しない



リム

ブレーキブロック

(ブレーキが利かなくなり、衝突や転倒によるけがのおそれ)



■リム(アルミリム)に著しい摩耗のあるときは乗らない

ブレーキブロック



著しい摩耗

リム交換マーク(溝)

(リムが破損し、転倒によるけがのおそれ)
⇒リム交換マークが見えなくなったら新しいリムと交換してください。
⇒交換は販売店に依頼してください。

バッテリーライトについて

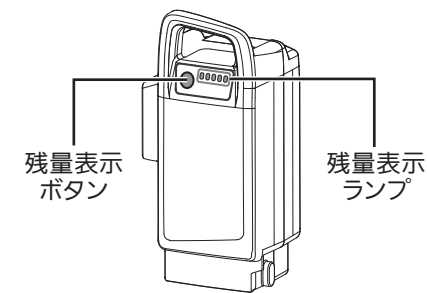


■ライトの取り付けが緩んだまま、走行しない
(前方を照らす角度が狂い、衝突や転倒によるけがのおそれ)

⇒乗るまえに点検してください。

■ライトの光を見続け
(目を痛める原因)

■夜間走行する場合、バッテリー残量が少ない状態のときには乗車しない



残量表示ボタン

残量表示ランプ

(消灯後の乗車は衝突や転倒によるけがのおそれ)
⇒夜間走行中、ライトが点滅状態や消灯状態になった場合、押して歩いてください。
無灯火での夜間走行は、法令違反になります。
⇒走行中アシストが切れた場合、ライトはしばらく点灯したあと消灯します。



警告

ブレーキについて



■前後ブレーキの作動を確認せずに乗らない*
■ブレーキレバーの遊びが大きいまま、小さいままで走行しない*
■タイヤやブレーキから異音がある場合は使用しない*

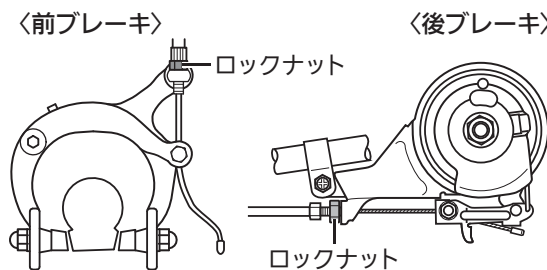
※(ブレーキが利かなくなったり、利き過ぎたりすることがあり、転倒や衝突によるけがのおそれ)
⇒ブレーキが利かないときやブレーキレバーの遊びが不適切なときは、すぐに販売店で点検を受けてください。

■ローラーブレーキグリスの補給には、ローラーブレーキ専用グリス以外は使用しない
(制動力が低下し、転倒や衝突によるけがのおそれ)
⇒販売店でローラーブレーキ専用グリス(当社品番: NBP002)を補給してください。

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない
(制動距離が長くなったり、スリップしやすくなったりするため、衝突や転倒によるけがのおそれ)

■前ブレーキだけを強くかけない
(車輪がロックし、自転車が前方に転倒し、けがのおそれ)

■前後ブレーキのロックナットは確実に締め付ける(32ページ)



〈前ブレーキ〉 ロックナット

〈後ブレーキ〉

ロックナット

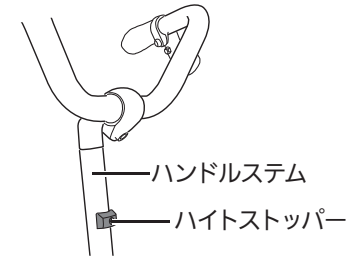
(ブレーキの調整が狂い、転倒や衝突によるけがのおそれ)

ハンドルについて



■ハンドルステムのハイトストッパーを外して、ハンドルステムを一番下まで下げない

必ず守る



ハンドルステム

ハイトストッパー

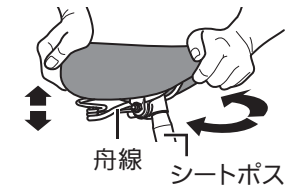
(固定が不完全になる場合があり、転倒や衝突によるけがのおそれ)

サドルについて



■乗るまえには、必ずがたつきやずれが無いか点検をする

必ず守る



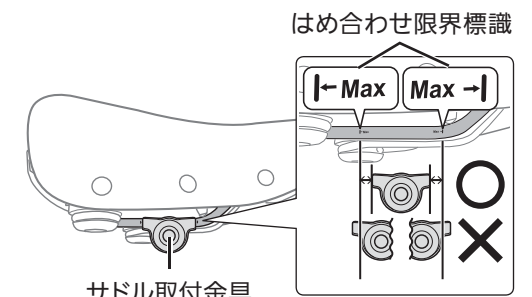
舟線 シートポスト

(シートポストや舟線が折れたり、固定が不安定になったりし、転倒によるけがのおそれ)
⇒サドルのがたつきやずれがある場合は、ご使用を中止し、販売店にご相談ください。



■サドル取付金具は、はめ合わせ限界標識を越えて固定しない

禁止



はめ合わせ限界標識

サドル取付金具

(舟線が折れ、転倒によるけがのおそれ)
⇒固定は販売店にご依頼ください。

安全上のご注意(つづき)

使用のまじ

警告

円筒形電池について



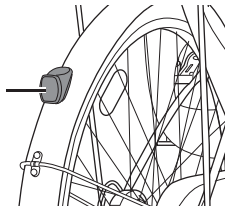
■円筒形電池は次のような使いかたをしない

- 充電器などで充電する
- 電池を火の中に投入する
- 電池をショートさせる
- 電池の⊕⊖を逆にして使用する
(電池が発熱・液漏れ・破裂によるけがのおそれ)

■円筒形電池は乳幼児の手の届く所に置かない

(誤って飲み込むと、身体に悪影響)
⇒万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

※円筒形電池はリヤリフレクターに使用



チェーンについて



■たるんだまま走行しない

(チェーンのたるみが大きくなると、走行時にチェーンが外れやすくなり、転倒や衝突によるけがの原因)
⇒ご使用を中止し、販売店で調整してください。

前車輪旋回抑制機構について

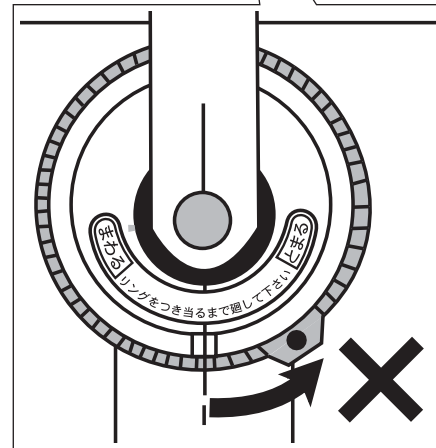
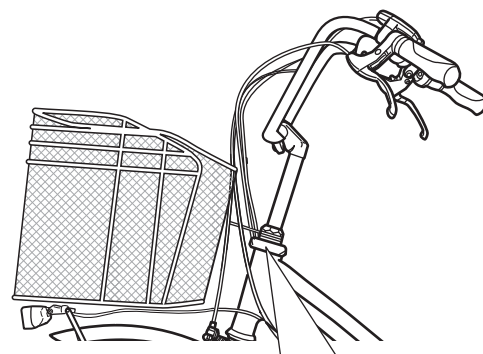
前車輪旋回抑制機構(くるピタ)：駐輪するときのハンドルのふらつきや回転を抑制する機構



■旋回を抑制したまま走行しない*
■くるピタの位置を確認せずに乗らない*

※(転倒によるけがのおそれ)
⇒必ずくるピタが解除されていることを確認してから乗車してください。

■発進時や走行中にリングを(とまる)の方向へ回さない(26 ページ)



(ハンドルの旋回が抑制され、転倒によるけがのおそれ)

警告

自転車に乗るまえに



■乗るまえの点検は必ず行う*

必ず守る



⇒点検の詳細については28 ページを参照してください。

■自転車を身体に合わせる*



両足のつま先が地面に着くように

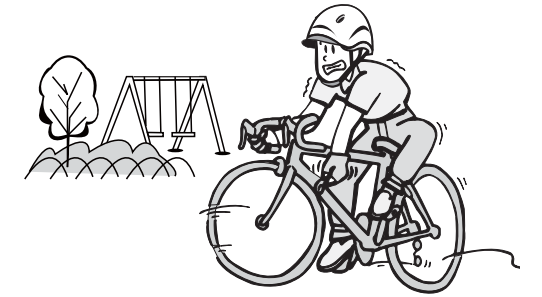
⇒正しい姿勢で乗車できるよう、上図のように販売店で調整してもらってください。

- ⇒操作して次のことを確認してください。
- ①円滑なペダリングができる。
 - ②ブレーキや変速機が確実に操作できる。
 - ③ハンドル操作が容易にできる。



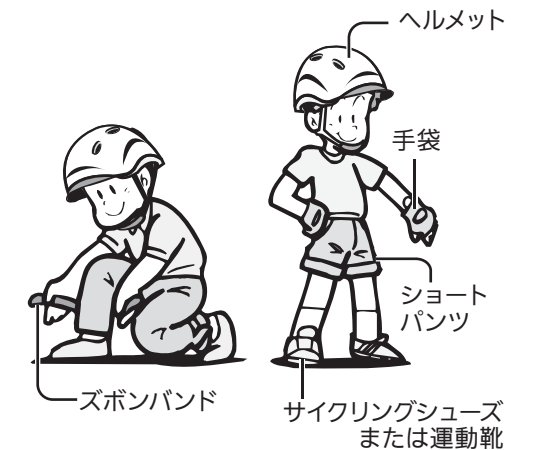
■自転車に慣れるまでは、車が通らない平坦な場所(公園や広場など)で十分練習する*

必ず守る



⇒よく練習してから一般道路でお乗りください。
⇒電動アシスト自転車の場合、慣れるまでは「ロング」で走行してください(48 ページ)。

■安全な服装を着用する(車輪に巻き込まれやすい服装はしない)*



⇒ズボンの汚れやチェーンへの巻き込み、ギヤへの引っ掛かりなどを防止するために、チェーンやギヤがむき出しの自転車に乗るときは、ズボンの裾をズボンバンドで止めてください。

※(衝突や転倒によるけがのおそれ)

使用のまじ

安全上のご注意(つづき)



警告

安全に乗るために



禁止

■安全装置は、取り外さない
(外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれ) (P. 27 ページ)

■走行中、手元スイッチの操作をしない
(電源の入切、アシストモードの切替、ライトの操作など)
(上り坂や発進時、誤操作などでアシストが切れたときに、バランスを崩したり、片手運転になり転倒によるけがのおそれ)
⇒必ず停止して、操作をしてください。

■停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せない



(不用意なアシスト力が働き転倒や接触事故によるけがのおそれ)

■スピードをだしすぎない



(衝突や転倒、接触事故によるけがのおそれ)

■スタンドを下げた状態で、乗らない(発進しない)
(スタンドが変形・破損して、走行中に引っ掛かりバランスを崩して転倒し、けがをするおそれ)
⇒スタンドを上げてから乗車してください。

■キーにはキーホルダーやスペアキーを付けたまま乗車しない
(キーホルダーやスペアキーなどが後車輪に巻き込まれ、転倒によるけがのおそれ)



禁止

■発進時または低速走行時は、ペダルを強く踏み込まない



(思わぬ急発進やアシストの働きにより転倒や衝突事故によるけがのおそれ)
⇒強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。

■発進時や、きつい上り坂走行時は重い変速位置を選ばない(P. 47 ページ)*

■バッテリー残量が少ない状態(残量表示が点滅状態)のときには、上り坂で乗車しない*



※(アシストが切れたときに、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

■後輪サークル錠は走行中に作動させない
(車輪がロックされ転倒によるけがのおそれ)

■走行時、ワイヤ錠を車輪の近くやハンドルにぶら下げない
(スポークに巻き込み、ハンドルが取られて転倒によるけがのおそれ)

■パンクしたままやタイヤの空気圧を確認せずに走行しない
(ハンドルが取られ、転倒や衝突によるけがのおそれ)



警告

安全に乗るために



禁止

■けんけん乗り(けり乗り) しない



(転倒や接触事故によるけがのおそれ)
⇒ペダルを強く踏めば、モーターがそれに応じて強いアシスト力を出すため、乗り込む際に自転車飛び出し、危険です。必ずサドルにまたがって、発進してください。
●けんけん乗り(けり乗り)とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動を付けてサドルにまたがる乗りかたです。

変速するときは

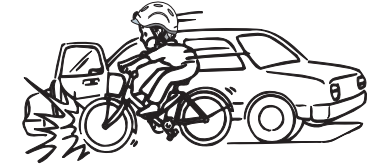
■一度に2段変速しない
(一気に変速すると、ショックが大きく、転倒によるけがのおそれ)
⇒1段ずつ変速してください。

■ペダルを踏み込みながら変速しない
(変速操作に対し、実際のギヤの切り替えが遅れ、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

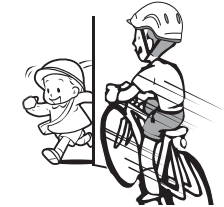
交通事故を防ぐために



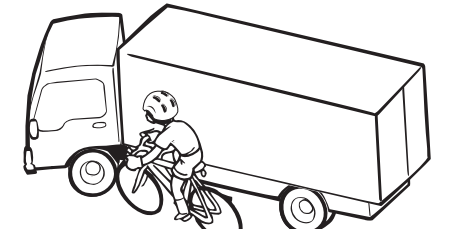
■車の横を走るときは!
■開くドアや人の飛び出しに注意する*



■学校や公園が近くにあるときは!
■子供の飛び出しに注意する*



■交差点を通るときは!
■左折車に巻き込まれないように注意する*



※(事故による重大なけがのおそれ)

自動車や子供に注意!
安全を確認し、乗りましょう



安全上のご注意(つづき)



警告

転倒事故を防ぐために



禁止

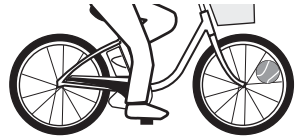
こんな使いかた

- 走行以外に使わない(踏み台代わりなど)



(転倒によるけがのおそれ)

- スポークの間に固形物(ボールなど)を入れて走らない



(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックや転倒によるけがのおそれ)

こんな乗りかた

- 傘やステッキ、釣りざおなどを車体に差し込んだり、釣り下げたりして乗らない*



- 路上の異物を不用意に踏まない*
 - 車輪の近くに取り付けてある部品の固定が確実であるかを確認せずに乗らない*
 - ブレーキをかけたときにブレーキブロックがタイヤに接触していたり、リムからはみ出していないかを確認せずに乗らない*
- ※(車輪に巻き込まれ、車輪の異常ロックによる転倒や、ほかの人や物にぶつかって事故によるけがのおそれ、特に前輪への巻き込みは前転により大きな被害になるおそれ)



禁止

- 手やハンドルに荷物をかけたり、ペットをつないだりしない



(荷物やひもが、車輪に巻き込まれ、バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)

- 巻き込みやすいものを車輪やギヤに近接させて乗らない(長いスカートやマフラー、傘やペットのひもなど)



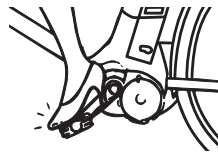
(車輪やギヤに巻き込まれ、車輪の異常ロックや転倒によるけがのおそれ)

- 土踏まずやかかとでペダルを踏まない



(カーブでつま先が前車輪に当たり転倒によるけがのおそれ)

- 滑りやすい靴や、かかとの高い靴、厚底靴などをはいて乗らない



(ペダルから足が外れ、転倒によるけがのおそれ)



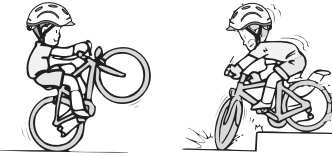
警告

転倒事故を防ぐために



禁止

- アクロバティックな乗りかたはしない*
- 段差の乗り降りをしてしない*



※(転倒や落車によるけがのおそれ)

- カーブで曲がる側のペダルを下げない



(ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれ)

- 合図以外は、ハンドルから手を離さない



(バランスを崩し、転倒によるけがのおそれ)



禁止

こんな場所

- 雨・風・雪のひどいときは乗らない



(バランスを崩したり、スリップすることで転倒によるけがのおそれ)
⇒雨の降り始めでも、路面の一部がぬれ、滑りやすくなります。乾いた路面からぬれた路面に入るときはスリップによる転倒に注意してください。

- 滑りやすい所では乗らない(積雪や凍結した道・ぬれた路面・石板(大理石など)・マンホールや側溝のフタ・路面上の表示(白線など)・タイル張りや点字ブロック・路肩の砂や砂利・ぬかるみなど)



(スリップして、転倒によるけがのおそれ)
⇒降りて、押して歩いてください。

- 凹凸の激しい所を走らない(歩道の段差や、溝など)



(フレームや車輪の損傷や転倒によるけがのおそれ)
⇒降りて、押して歩いてください。

安全上のご注意(つづき)



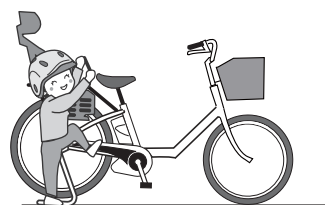
警告

チャイルドシートを使用するときは



禁止

■幼児にチャイルドシートのステップ、チェーンケースやフレームを踏み台にして乗り降りさせない*



■幼児にステップおよび座面の上に立ちあがらせない*

※(ステップやチェーンケースが変形・破損したり自転車が倒れたりし、幼児がけがをするおそれ)

■チャイルドシートに幼児を座らせている場合、可動部に触れさせない

(車輪やギヤに手足を巻き込まれ、けがをするおそれ)

■チャイルドシート以外の場所に幼児を乗せない*

■チャイルドシートに幼児を乗せているときは、短時間であっても、自転車から離れない*

■幼児を乗せたまま駐輪しない*

■使用するときは、ねじなどの緩みが無く、取り付けが確実であることを確認し、破損、変形などしたままでの使用はしない

※(自転車が転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)



必ず守る

■乗車および走行中は、必ず幼児にヘルメット(SG規格適合の自転車用ヘルメットと同等以上のもの)を着用させる



(幼児がけがをするおそれ)

⇒ヘルメットを着用させないでチャイルドシートに子供を乗せると、事故時に致命的な傷害を受ける確率が高くなります。



必ず守る

■適用年齢、体重制限、自転車のリヤキャリアに表示されている積載重量、身長制限、定員を守る*(P.42・67ページ)

■乗車および走行中は、必ず幼児にグリップを持たせ寝ないように留意する*

■乗車および走行中は、必ず幼児にシートベルトを着用させ、正しい姿勢を取らせる*

※(幼児が落下して、けがをするおそれ)
⇒乗せることができる幼児は、年齢1歳(12か月)以上ですが、特に後チャイルドシートは目が届きにくいので、幼児が急に立ちあがりしても気づかないおそれがあります。必ず、シートベルトを装着してください。

■走行中は、幼児の足が車輪に巻き込まれないよう、幼児の足はステップに乗せる*

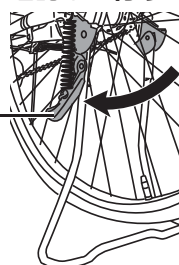
■ステップは、必ず幼児の体型にあった位置に調整し、取り外したりしない*

■幼児を乗せるときは必ず靴をはかせる*

※(幼児の足が車輪に巻き込まれ、けがをするおそれ)

■幼児は荷物などよりもあとに乗せ、最初に降ろす*

■幼児の乗せ降ろしの際は、ハンドルをまっすぐにした状態で平坦な場所に駐輪し、必ず幼児を抱いて行う。また、スタンドロックがかかっているか確認して行う*



スタンドロック

※(自転車が転倒し、幼児が落下してけがをするおそれ)

■幼児を乗せるときは、安全の確保できる場所で十分練習してから乗車する

(バランスを崩したり、ブレーキの利が悪くなったりし、転倒によるけがのおそれ)

■急ブレーキ、急ハンドルは避ける

(転倒や衝突によるけがのおそれ)



警告

チャイルドシートを使用するときは



必ず守る

■炎天下での駐輪時、チャイルドシートが熱くなっていないか確認してから幼児を乗せる(幼児がやけどするおそれ)

■リヤキャリア取付式チャイルドシートを取り付けるときは、乗車・運転に支障の無い範囲でできる限り前寄りに取り付ける

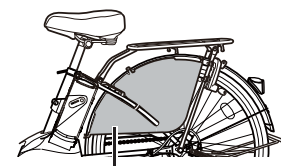
(バランスを崩して転倒によるけがのおそれ)
⇒前に寄り過ぎて取り付けると、ペダリング時にチャイルドシートに足が当たりますのでご注意ください。

■幼児を乗せた状態での押し歩き、スタンド操作時などの場合はハンドルを両手でしっかり押さえる



(後方へ転倒したり、幼児がけがをするおそれ)
⇒ハイバック式チャイルドシートでは重心が後寄りになりますのでご注意ください。

■リヤキャリア取付式チャイルドシートを取り付けるときは、ドレスガードが取り付けられているか確認する



ドレスガード

(車輪に手足を巻き込まれ、けがをするおそれ)
⇒ドレスガードが装備されていない場合は、販売店にご相談ください。

定期点検は



必ず守る

■定期点検と整備は、異音が生じたり、異常を感じたとき、それ以外でも必ず6か月に1回(初回を除き)実施する

(異常や故障の発見がおくれ事故発生によるけがのおそれ)

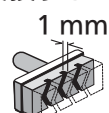
⇒必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士・自転車技士(自転車組立整備士)により点検・整備をお受けください。

・初回(2か月以内)の点検と整備
お買い上げ2か月ぐらいのご使用で、各部にねじの緩みが出ることがあります。

・2回目以降(6か月ごと)の点検と整備
安全にご愛用いただくため、お買い求めの販売店または修理代行店に依頼し、必ず継続してお受けください。

■ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、外観上異常が無くとも2年に1回は、交換する*

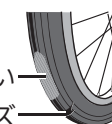
■ブレーキブロックは、溝の残りが、1mmになるまえに交換する*



1 mm

■ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロック(当社品番: NBC064FF)に交換する*

■タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなるまえに交換する*



摩耗して溝が無い
深いキズ

※(ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれ)

⇒タイヤは仕様(P.64ページ)のタイヤ寸法にあったものと交換してください。
⇒交換は販売店に依頼してください。

消耗品を交換するときは



必ず守る

■純正部品を使用する

(純正部品以外の使用で故障や事故発生によるけがのおそれ)

⇒交換はお買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士・自転車技士(自転車組立整備士)に依頼してください。

安全上のご注意(つづき)

警告

荷物を積むときは



■積載条件(積載質量、積載物の大きさ)から外れる荷物を積まない(42 ページ)



(リヤキャリアやフレームが破損したり、ふらついて転倒によるけがのおそれ)

■リヤキャリアを変造および改造はしない
(部品が破損したり、外れたりし、転倒によるけがのおそれ)

■荷物を載せたまま自転車を押し歩きするとき、ハンドルを大きく切ったり、傾けたりしない
(ハンドルを大きく切った際に、自転車が左右に傾きやすくなり、荷物の重みで転倒によるけがのおそれ)
⇒傾斜面や路面の凹凸がある所では、特に起こりやすくなりますのでご注意ください。



必ず守る

■荷物でリアリフレクターが隠れないようにする
(事故によるけがのおそれ)

■荷物は確実に固定する
(バランスを崩したり、ひもやベルトを後車輪に巻き込んで、転倒によるけがのおそれ)

■荷物を積載するときは、安全の確保できる場所で、十分練習してから乗車する
(自転車のハンドル操作や走行安定性を損ない、ブレーキをかけたときに制動距離が長くなり、バランスを崩したり、ブレーキの利きが悪くなることにより、転倒によるけがのおそれ)

包装の袋などは



禁止

■取扱説明書が入っているポリ袋や、サドル・バスケットのポリ袋は幼児の手の届く所に置かない
(頭からかぶるなどしたときに、口や鼻をふさぎ窒息するおそれ)

運搬するときは



必ず守る

■自転車を運搬するときはバッテリーを外す
(自動車への積載時など、運搬の際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれ)

保管するときは



禁止

■不安定な場所に自転車を保管しない
(自転車が動き出したり、風などで自転車が転倒したりして事故につながるおそれ)

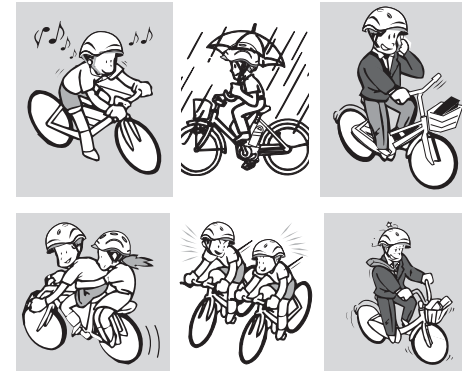
警告

自転車の交通安全ルールについて



禁止

■次の様な運転は絶対にしない*
●ヘッドホンを使用しながらの運転
●飲酒運転 ●傘差し運転 ●2人乗り
●携帯電話を操作しながらの運転
●信号無視 ●並進



⇒小学校就学の始期に達するまでの者をチャイルドシートに1人乗せる場合などを除き、2人乗りは禁止です(幼児2人同乗用自転車を除く)。
⇒「並進可」標識のある場所以外は並進は禁止です。



必ず守る

■夜間やトンネル内、視界の悪いときは、ライトを点灯して通行する*



⇒夜の無灯火での運転は法令違反です。暗い所ではライトをつけて通行しましょう。
⇒見通しが悪くなり、また自動車から見えにくくなりますので危険です。前照灯がつかない場合やリフレクターが破損したり汚れているときは、押して歩いてください。

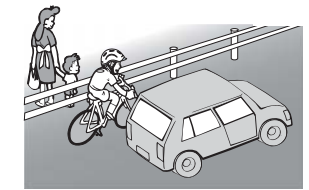


必ず守る

■保護者は13歳未満の子供が乗車するときは必ずヘルメットを着用させる*

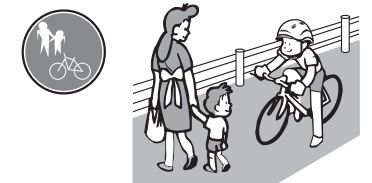


■自転車は、車道を通行する*



⇒歩道と車道の区別のある所は、自転車は車道の左端に寄って通行しましょう(路側帯がある場合でも、自転車の通行は道路の左側部分に設けられた路側帯に限定されます)。
⇒次の様な場合は、歩道通行ができます。

- 自転車歩道通行可の標識などで指定されている場合
- 運転者が児童、幼児、70歳以上の場合
- 車道や交通の状況から見てやむを得ない場合



⇒歩道は歩行者優先、車道寄りを徐行してください。

■交差点では一時停止と安全確認を行う*



⇒一時停止の標識を守り、広い道に出るときは、徐行と安全確認をしてください。
⇒信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。

※(交通ルールを守らないと衝突や転倒によるけがのおそれ)

使用上のお願い

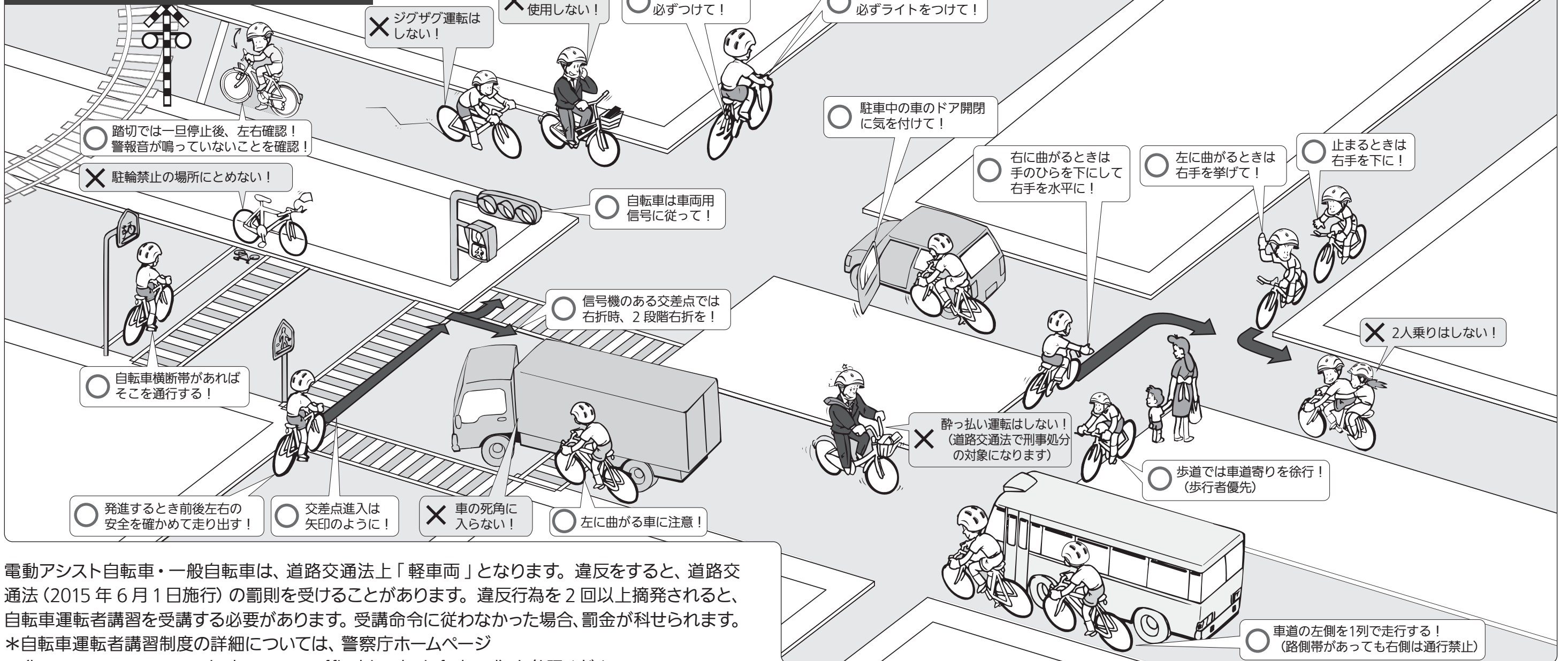
必ずお守りください

けがをせずに、ほかの人にも迷惑をかけないために、乗りかた・交通ルール・道路標識を守りましょう。

●安全のため、ヘルメットの着用をお勧めします。

●万一の事故に備え、対人・対物賠償保険に加入されることをお勧めします。
(加入義務化の地域もありますので、ご使用先の自治体にご確認ください)

自転車で道を走るときのルール・マナー



電動アシスト自転車・一般自転車は、道路交通法上「軽車両」となります。違反をすると、道路交通法（2015年6月1日施行）の罰則を受けることがあります。違反行為を2回以上摘発されると、自転車運転者講習を受講する必要があります。受講命令に従わなかった場合、罰金が科せられます。

*自転車運転者講習制度の詳細については、警察庁ホームページ

(<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/bicycle/info.html>) を参照ください。

自転車運転者講習の対象となる危険行為

- 信号無視 ●指定場所一時不停止等 ●酒酔い運転 ●歩道通行時の通行方法違反 ●遮断踏切立入り
- 制動装置(ブレーキ)不良自転車運転 ●通行禁止違反 ●交差点安全進行義務違反等 ●通行区分違反
- 歩行者用道路における車両の義務違反(徐行違反) ●交差点優先車妨害等 ●安全運転義務違反
- 環状交差点安全進行義務違反等 ●路側帯通行時の歩行者の通行妨害 ●妨害運転(交通の危険のおそれ)

自転車安全利用五則

1. 自転車は、車道が原則、歩道は例外
2. 車道は左側を通行
3. 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
4. 安全ルールを守る
 - 飲酒運転・2人乗り・並進の禁止
 - 夜間はライトを点灯
 - 交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
5. 子供はヘルメットを着用

乗ったあとは

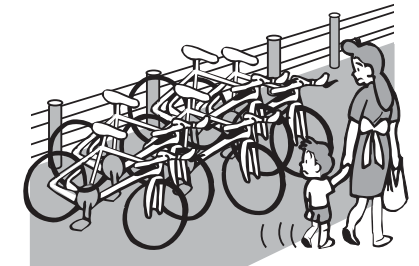
決められた場所に駐輪してください

- 駐輪するときは、ほかの人に迷惑にならないよう、決められた場所にとめましょう。
- 盗難防止のため、必ずかぎをかけましょう。
- サークル錠は、盗難予防に絶対的なものではありません。ワイヤ錠を使用するなど、二重施錠をお勧めします。



自転車放置禁止

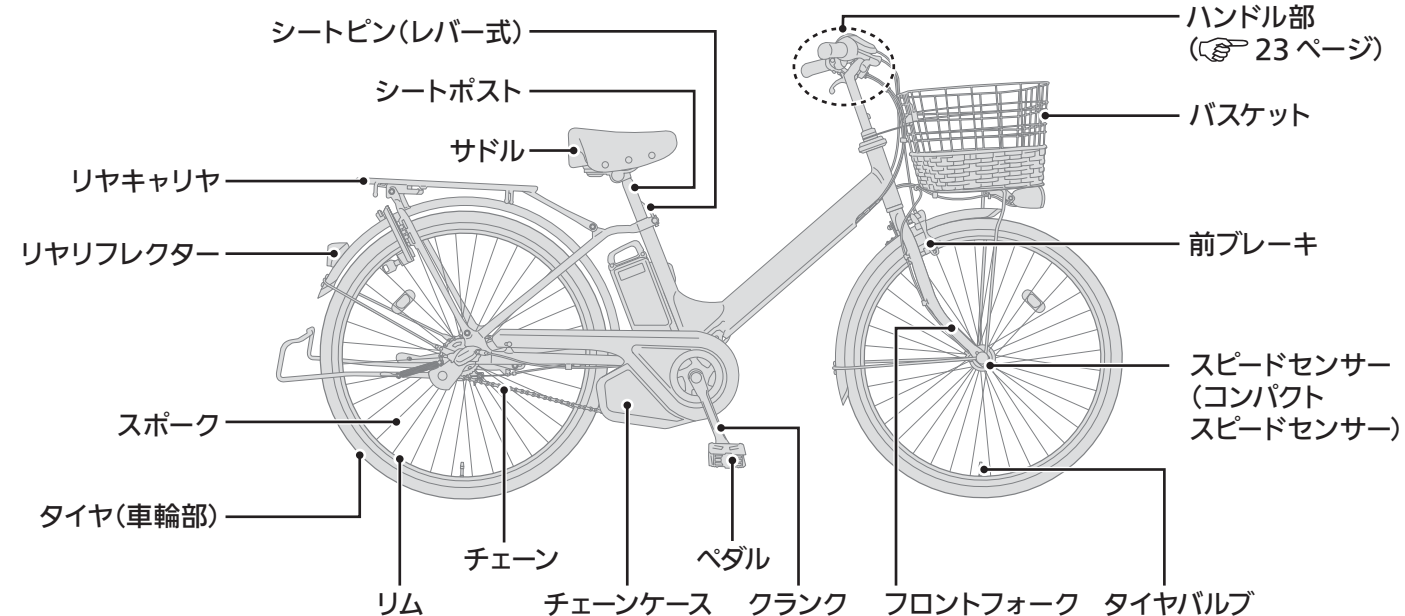
- 自転車の放置は、ほかの人に迷惑をかけるばかりでなく、環境悪化の原因となります。絶対にやめましょう。



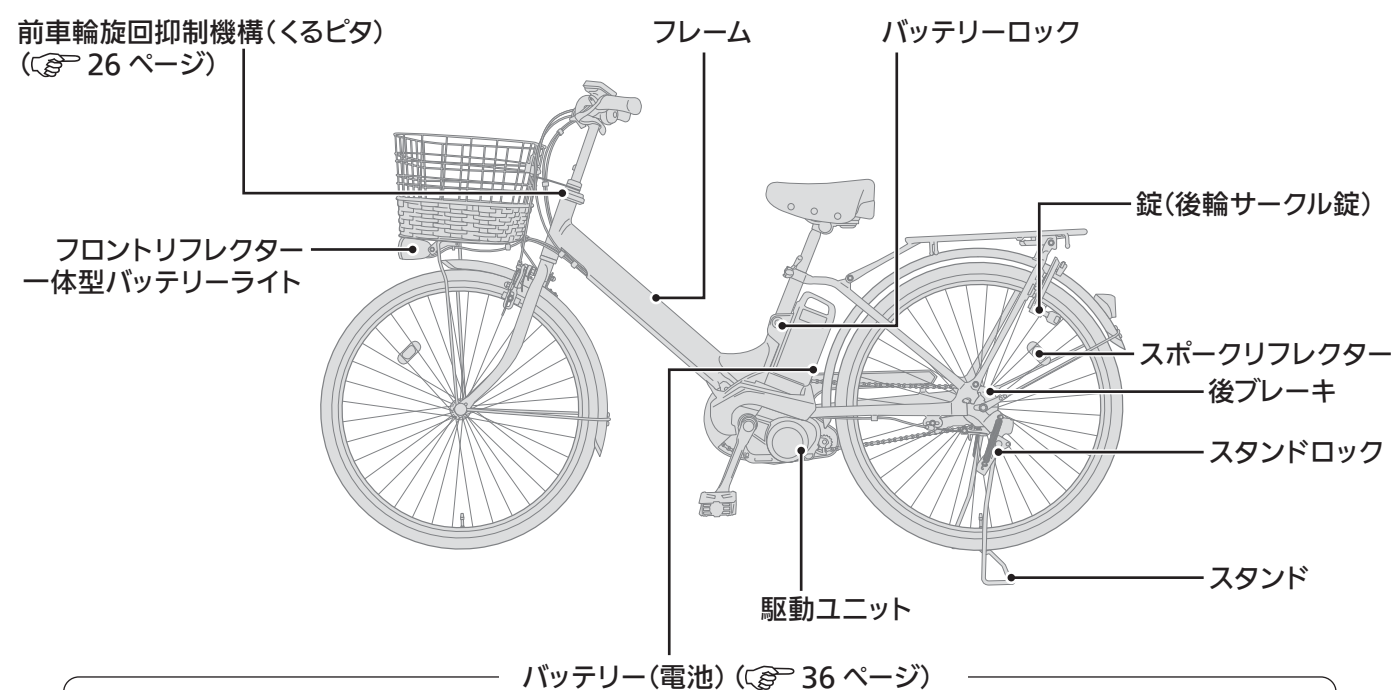
各部のなまえとはたらき

■自転車本体

〈右側面図〉

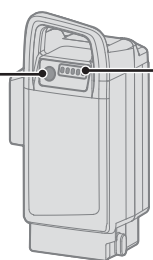


〈左側面図〉



バッテリー(電池) (36 ページ)

残量表示ボタン
 (このボタンを押すと残量表示ランプが点灯または点滅し、バッテリーの残量をお知らせします)

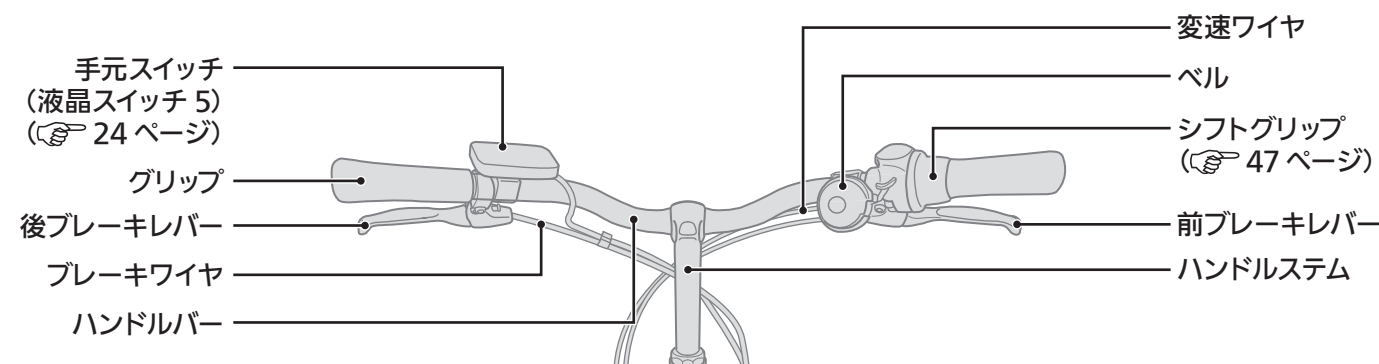


残量表示ランプ

お願い

- 残量表示ランプ部と意匠マーク部の保護フィルムをはがしてご使用ください。

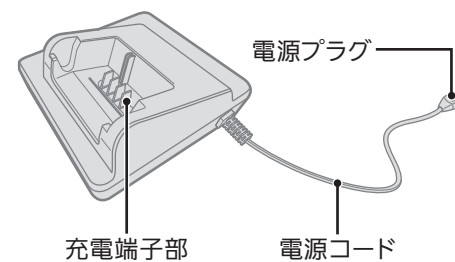
■ハンドル部



■付属品

自転車本体のほかに、下記のものすべてが含まれていることをご確認ください。

●充電器

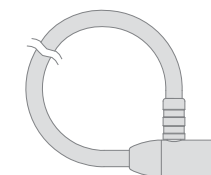


●取扱説明書(本書)

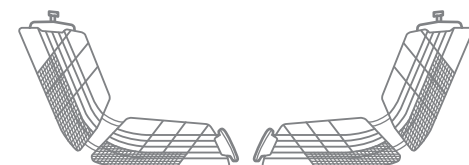
●商品登録はがき

●保証書

●ワイヤ錠



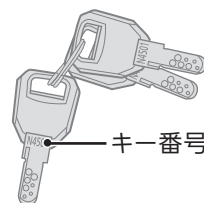
●ドレスガード



(チャイルドシート(後用)を取り付ける場合はドレスガードを必ず組み付けてください)

●キー(3本)

バッテリーロック・後輪サークル錠・ワイヤ錠の3つに使用します。



〈スペアキーの購入方法〉

キーを紛失された場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。その際には、保証書とキー番号が必要ですので、必ずご持参ください。

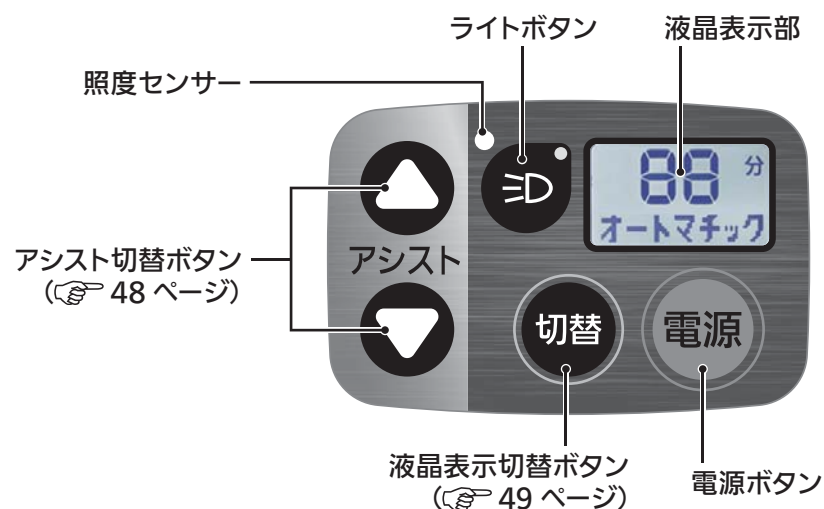
お願い

- キーは紛失しないよう大切に保管し、キー番号は控えておいてください(71 ページのキー番号欄に記入しておかれることをお勧めします)。キー番号は、キー本体と保証書に記載されています。

各部のなまえとはたらき(つづき)

■手元スイッチ(液晶スイッチ 5)

バッテリーライトの入切や、アシストの強さ(☞ 48 ページ) を変更できます。バッテリー残量も確認することができます(☞ 49 ページ)。



・電源ボタンを「入」にすると、液晶表示部のバックライトが常に点灯し、表示が見やすくなります。

お知らせ

●偏光サングラス使用時は液晶画面が見にくくなる場合があります。

バッテリーライトの点灯について

電源が『入』の状態でも周囲が暗くなると、照度センサーが働き自動で点灯します(オートライト機能)。明るくなると、自動で消灯します。

〈手動で点灯・消灯したいとき〉

手元スイッチのライトボタンを長押し(約 1 秒) すると、電源の入切に関係なく、バッテリーライトを点灯・消灯することができます。

- ・電源が入った状態で 10 分以上車両を放置すると、自動で消灯します。
- ・ライトボタンを操作すると、オートライト機能は働きません。
- ・手元スイッチの取り付け状態やご使用の周囲環境によって、意図しない点灯・消灯をする場合があります。必要に応じて、手動操作での点灯・消灯の切り替えをご使用ください。



お知らせ

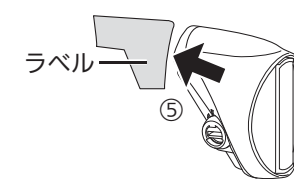
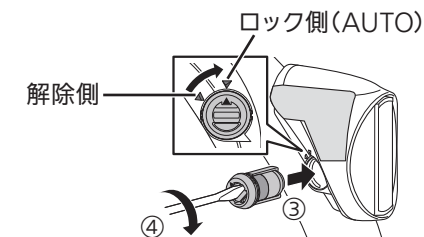
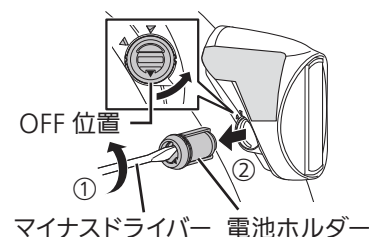
- アシストがなくなっても、バッテリーライトは点灯します。しばらくするとゆっくり点滅してから消灯しますので、点滅状態になったら、夜間やトンネル内、視界の悪いときは、降りて押ししてください。
- 電源ボタンが点灯していても、液晶表示部に「アシストなし」と表示されるときは、アシストは働きません。アシストを動作させたい場合は、電源ボタンを押して電源を ON にしてください。

■リヤリフレクター(ソーラーオートテール 3)

このリヤリフレクターは充電用の円筒形電池に太陽光発電(ソーラーパネル) で充電され、走行中に周囲が暗くなると自動で点滅し、停止すると消灯します(ただし、停止後も約 1 分間は点滅を続けます)。

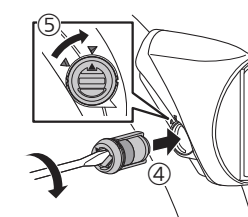
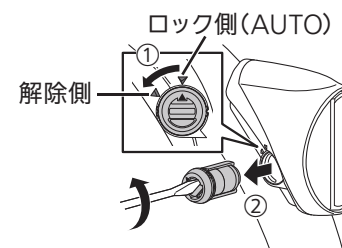
〈ご使用のまえに〉

- ①電池ホルダーをマイナスドライバーで反時計方向に回し
- ②まっすぐ引き抜く
- ③電池ホルダーの▲を本体の▼(解除側)に合わせてまっすぐ差し込み
- ④▼ロック側(AUTO) まで回す
- ⑤ラベルをはがす
日光下で充電してから使用してください。



〈充電電池の交換方法〉

- ①電池ホルダーの▲を本体の▼(解除側) まで回し
- ②まっすぐ引き抜く
- ③電池を交換する
- ④電池ホルダーの▲を本体の▼(解除側) に合わせてまっすぐ差し込み
- ⑤▼ロック側(AUTO) まで回す

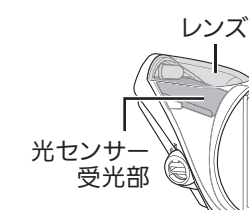


お願い

- 取り替えた電池は、販売店かリサイクル協力店へお持ちください。
- 交換用の充電電池は、「ニッケル水素円筒形電池(GP17AAAH 専用)」を使用してください。

お知らせ

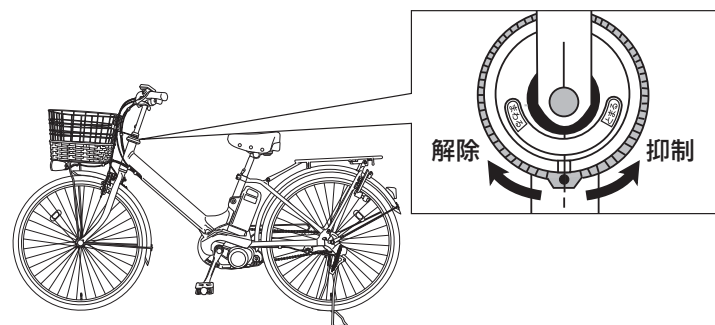
- 内部の LED は基板直付けのため交換はできません。
- 連続点滅時間は、約 22 時間(直射日光下 4 時間放置後充電時、連続点滅)となっておりますが、ご使用の状況により、変わる場合があります(曇りまたは雨の日でも充電は可能ですが、充電効率が低くなります)。
- リヤリフレクターを覆ったり、暗い所へ自転車を置いたりした場合、充電できずに自動点滅しない場合があります。このようなとき、蓄えた電力量を使い切る深放電が繰り返され、極端に電池寿命が短くなることがあります。
- 充電電池の寿命は、約 2 年が目安となっておりますが、ご使用の状況により、変わる場合があります。
- レンズの汚れがひどいと光センサー受光部に光が届きにくくなるため、明るい昼間でも、点滅することがあります。また、太陽電池の充電効率も悪くなります。



各部のなまえとはたらき(つづき)

■前車輪旋回抑制機構(くるピタ)について

駐輪するときのハンドルのふらつきや、回転を抑制します。



⚠ 注意



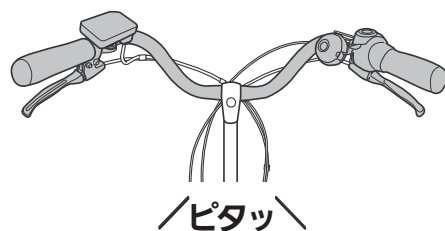
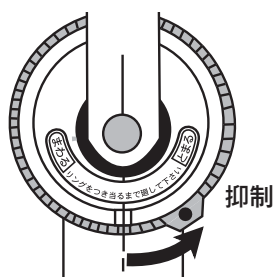
■前車輪旋回抑制機構が壊れたまま使用しない
(停車中、ハンドルが回転して転倒し、けがのおそれ)
→ご使用を中止し、販売店にご相談ください。

●ハンドルの旋回を抑制するとき

前車輪旋回抑制機構の、リングの赤い●印を反時計方向(とまる側)に回らなくなるまで回し、止める(ハンドルの旋回が抑制されます)。

反時計方向に回す

ハンドルが回りにくくなります



お知らせ

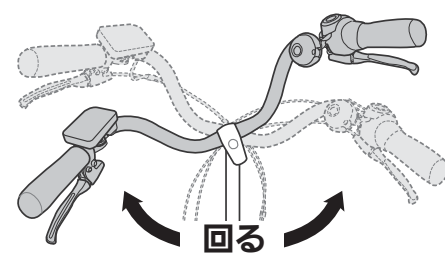
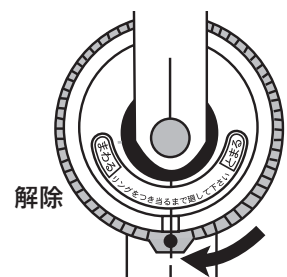
●リングを反時計方向(とまる側)に回しても、旋回が抑制されない場合は、ハンドルを少し動かしながらリングを回し、止めてください。

●旋回抑制を解除するとき

前車輪旋回抑制機構のリングの赤い●印を時計方向(まわる側)に回らなくなるまで回して、ハンドルがスムーズに回ることを確認する。

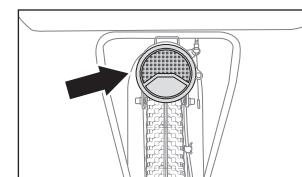
時計方向に回す

ハンドルは回ります



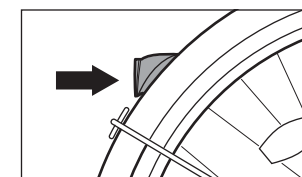
■安全装置

フロントリフレクター
(前部反射器)



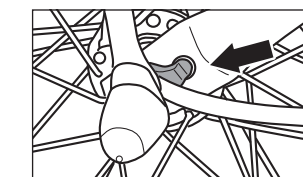
前からの光を反射します。

リアリフレクター
(ソーラーオートテール3)



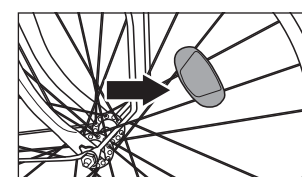
後からの光を反射します。
夜間はLEDが点滅します。

前車輪脱落防止金具



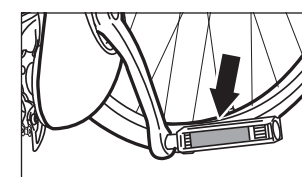
前車輪の脱落を防止します。

スポークリフレクター



横からの光を反射します。

ペダルリフレクター



前後からの光を反射します。

お願い

- リフレクターが破損した場合は、直ちに新品と交換してください。(破損したままでの夜間走行はしないでください)
- リフレクターが汚れているときは、必ず汚れをふき取ってください。

⚠ 警告



■安全装置は取り外さない
(外したまま使用すると、事故発生によるけがのおそれ)

■品番および型式認定済 TS マーク(保険無し)

- この型式認定済 TS マークは、国家公安委員会の型式認定を取得した製品にだけ表示することができるもので、法令の基準に適合することを明らかにするものです。
- このマークには、交通傷害保険は付帯していません。保険付き TS マークについては 69 ページを参照ください。



お願い

- マークをはがしたり、傷つけたりしないでください。

■車体番号(刻印位置)

防犯登録に必要で、数字と英字で表示しています。

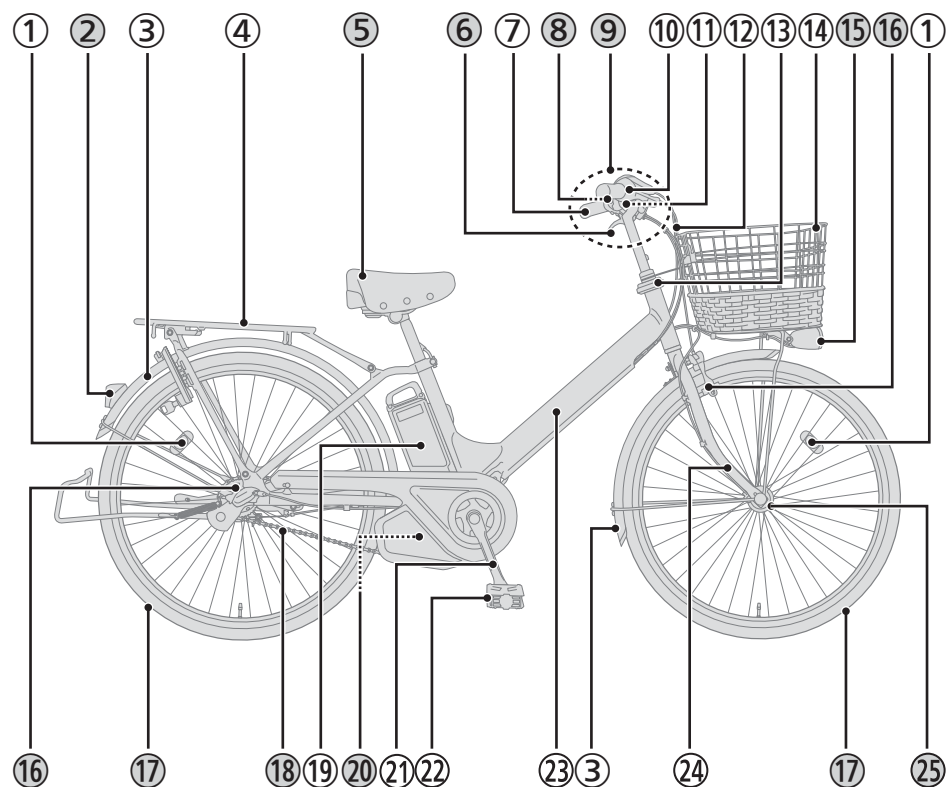


乗るまえの点検と調整

安全にご乗車いただくため、乗るまえに点検と調整を実施する習慣を付けましょう。

お願い

- 点検と調整は電源を切った状態で行ってください。
- 未組立、未調整および調整不良の自転車は使用しないでください。
- わからないときは、販売店にご相談ください。



点検箇所	点検内容
① スポークリフレクター〈前・後〉	<input type="checkbox"/> 割れやがたつきは無いかな？
② リヤリフレクター	(☞ 30 ページ)
③ どろよけ〈前・後〉	<input type="checkbox"/> がたつきや外れは無いかな？ <input type="checkbox"/> タイヤに当たっていないかな？ <input type="checkbox"/> 曲がりはないかな？
④ リヤキャリア	<input type="checkbox"/> 固定は確実かな？
⑤ サドル	(☞ 30 ページ)
⑥ ブレーキレバー〈左・右〉	(☞ 31 ページ)
⑦ グリップ〈左・右〉	<input type="checkbox"/> ひび割れは無いかな？ <input type="checkbox"/> 抜けは無いかな？ <input type="checkbox"/> 回らないかな？
⑧ 手元スイッチ	(☞ 33 ページ)
⑨ ハンドル部	(☞ 33 ページ)
⑩ シフトグリップ	<input type="checkbox"/> スムーズに変速できるかな？

点検箇所	点検内容
⑪ ベル	<input type="checkbox"/> よく鳴るか？ <input type="checkbox"/> 固定は確実かな？
⑫ ワイヤ類(ブレーキ・変速機など)	<input type="checkbox"/> たるみ・さび・固着・断線や損傷が無いかな？
⑬ 前車輪回転抑制機構	<input type="checkbox"/> ロック解除後、ハンドルがスムーズに回るかな？
⑭ バスケット	<input type="checkbox"/> がたつきは無いかな？
⑮ フロントリフレクター—体型 バッテリーライト	(☞ 33 ページ)
⑯ ブレーキ〈前・後〉	(☞ 31 ページ)
⑰ 車輪部〈前・後〉	(☞ 34 ページ)
⑱ チェーン	(☞ 35 ページ)
⑲ バッテリー	残量表示ボタンを押したとき <input type="checkbox"/> 残量表示ランプが点灯するかな？(☞ 40 ページ) 外観を見て <input type="checkbox"/> ケースにひび割れや変形、ねじの緩みなどは無いかな？ <input type="checkbox"/> 端子部が汚れていないかな？ 車体に装着してみた <input type="checkbox"/> しっかりと車体にはまっているかな？(☞ 38 ページ)
⑳ 駆動ユニット	(☞ 35 ページ)
㉑ ペダル・クランク	<input type="checkbox"/> がたつきは無いかな？ <input type="checkbox"/> ひび割れや曲がりはないかな？
㉒ ペダルリフレクター	<input type="checkbox"/> 割れやがたつき、汚れは無いかな？
㉓ フレーム	<input type="checkbox"/> ひび割れや変形は無いかな？ <input type="checkbox"/> ワイヤ類が巻きついていないかな？
㉔ フロントフォーク	<input type="checkbox"/> ひび割れや変形は無いかな？
㉕ スピードセンサー	(☞ 35 ページ)

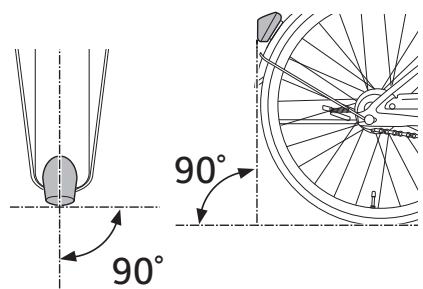
乗るまえの点検と調整(つづき)

② リヤリフレクター(ソーラーオートテール 3)

- 割れや、汚れは無いかな?
- 反射面の角度は適切かな?

〈お手入れについて〉

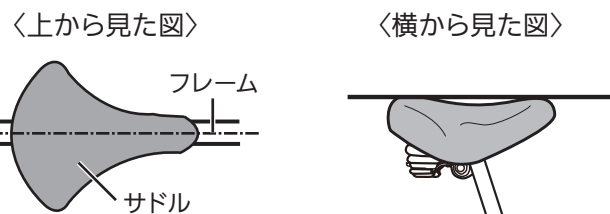
レンズに付いた汚れはこまめにふき取ってください。
 レンズの汚れがひどい場合は、水もしくは薄めた中性洗剤を
 しみ込ませた布でふき取ってください。



⑤ サドル

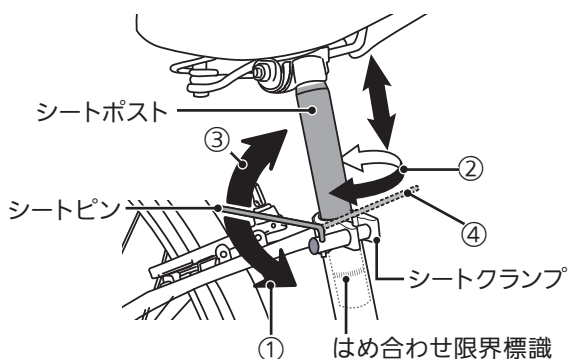
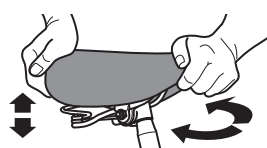
- 両足のつま先が地面に着くかな?
- サドルの固定は確実かな?
- サドルがフレームと平行になっているかな?
- サドルの上面と地面が平行になっているかな?
- シートポストのはめ合わせ限界標識が、見えていないかな?

サドルの正しい方向と角度



〈サドルの高さと向きの調整は〉

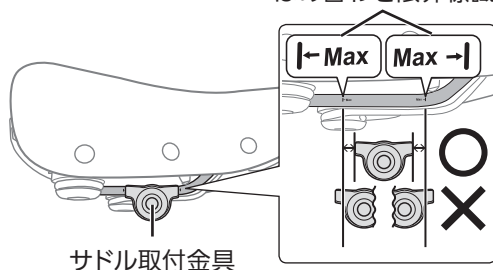
- ① シートピンを緩める
- ② サドルの高さと向きを調整する
- ③ シートピンを締める
 締付トルク : (8 ~ 12) N・m { (80 ~ 120) kgf・cm }
- ④ シートピンを身体に当たらない位置に固定する
- ⑤ がたつきやずれが無いことを確認する



お願い

- 上記のトルクでシートポストは十分固定されます。
 シートピンを締め過ぎないでください(シートクランプが破損するおそれがあります)。
- サドル取付金具の固定は、はめ合わせ限界標識を超えない範囲で固定してください(範囲を超えて固定した状態で使用すると、舟線が折れてけがをするおそれがあります。 サドル取付金具の固定は販売店にご依頼ください)。

はめ合わせ限界標識



お知らせ

- サドルを標準仕様より低くしたいときは、別売品の直付けサドル(66 ページ) に交換されますとサドル高さを通常より約 3 cm ~ 4 cm 下げることができます。

⑥ ブレーキレバー ⑩ ブレーキ(調整は販売店にご依頼ください)

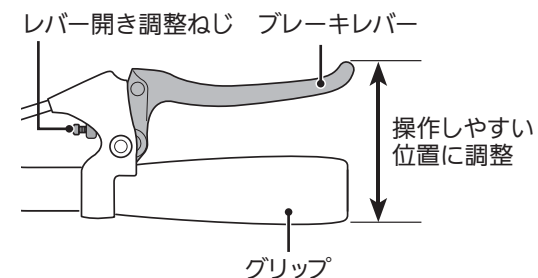
ブレーキレバー(左右)

- ブレーキの利きは良いかな?
- ブレーキワイヤのさびやほつれは無いかな?
- 左右ブレーキレバーの取り付け部を押して動いたりしないかな?

- 開き・引きしろは適正かな?
- 操作したときに動作は円滑かな?
- ブレーキの引きずり*は無いかな?
 ※ブレーキの引きずりとは、ブレーキをかけていないのにブレーキがかかってしまう状態のことです。

〈ブレーキレバーの開き調整〉

- ① ブレーキレバーを開放した状態で、レバー開き調整ねじを回す
- ② 操作しやすい位置(ブレーキレバーを引く指の第一関節から第二関節がかかる位置が推奨)に調整する

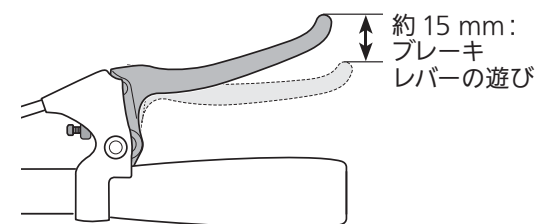


お願い

- ブレーキレバーを強く握って、レバーとグリップが付く場合は、遊びを少なくして再調整してください。

〈ブレーキレバーの引きしろ調整〉

ブレーキレバーの遊びが約 15 mm になるよう、前後ブレーキの引きしろをブレーキ調整ねじで調整する。



お願い

- 上記の調整範囲は目安です。調整後は必ずブレーキテストをしてください。
- 前後車輪の回転が重くないことを確認してください(電源を入れずに行ってください)。

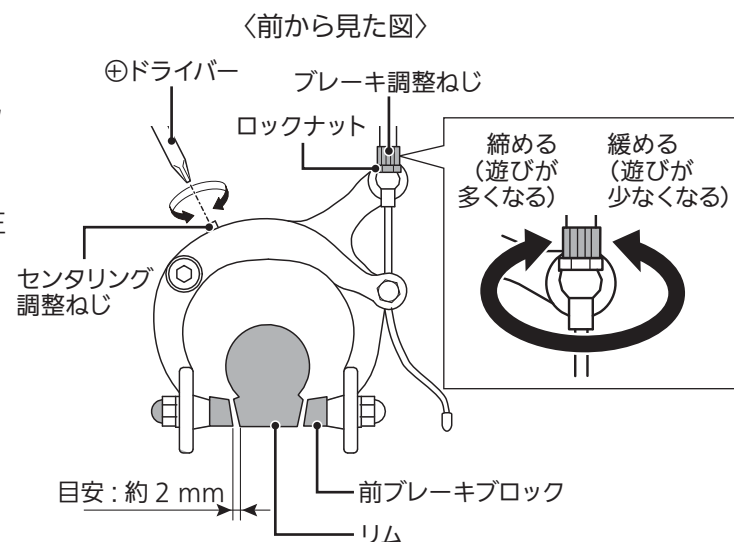
前ブレーキ(ブレーキブロック)

- すりへっていないかな?
- 異物は付いていないかな?
- 固定は確実かな?
- タイヤに当たっていないかな?
- 横から見てリムと平行になっているかな?

乗るまえの点検と調整(つづき)

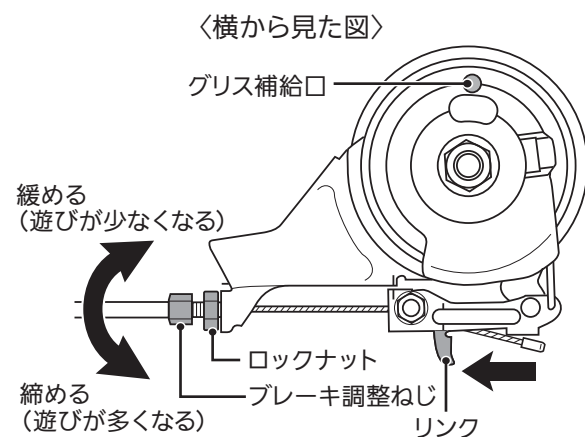
〈前ブレーキの調整〉

- ①ロックナットを緩める
- ②ブレーキ調整ねじを回す
- ③センタリング調整ねじで、リムと前ブレーキブロックの隙間が左右均等になるように調整する
- ④走行してブレーキの利きを確認する
- ⑤ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける



〈後ブレーキの調整〉

- ①ブレーキ調整ねじのロックナットを緩める
- ②リンクを押しながら、ブレーキ調整ねじを回す
- ③走行してブレーキの利きを確認する
- ④ブレーキ調整ねじが緩まないよう、ロックナットを適正締付トルクで締め付ける



お願い

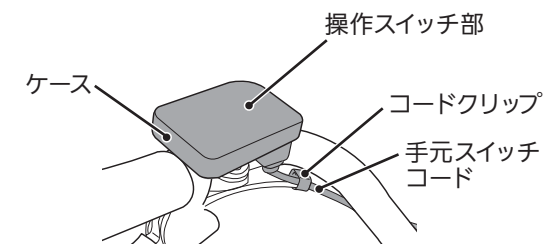
- 確実な制動力を得るために、通常 1 ~ 2 年に 1 回程度は販売店でローラーブレーキ専用グリス (当社品番：NBP002) を補給してください。
- ブレーキ調整が不適切な場合、ブレーキが利き過ぎたり、逆に利かなかったりすることがあります。また、使用によるなじみや摩耗で、ブレーキの利き具合が変わります。ブレーキが利きにくい場合は、販売店で点検を受けてください。

お知らせ

- 2013 年 12 月 1 日より、制動装置(ブレーキ) に不備のある自転車と認められる自転車が運転されているときは警察官が停止させ検査ができるようになりました。停止や検査を拒んだり、運転継続禁止命令に従わなかった場合は罰金が科せられる場合があります。

⑧ 手元スイッチ

- ケースや操作スイッチ部にひび割れなどが無いか？
- スタンドを上げて、ハンドルを回転させたとき、手元スイッチコードが突っ張っていないか？
- コードに断線や損傷は無いか？
- コードクリップは外れていないか？

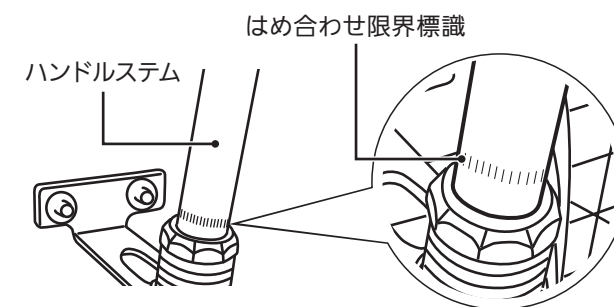


電源を入れたとき

- 液晶表示部に「888」が表示されるか？ (☞ 44 ページ)
- ライトボタンを押して、ライトは点灯するか？ (☞ 24 ページ)

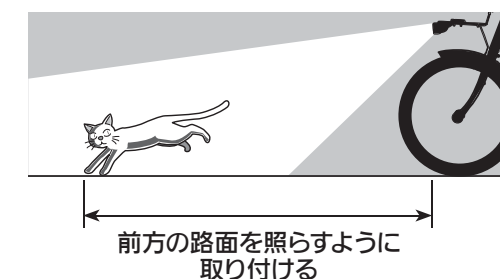
⑨ ハンドル部(調整は販売店にご依頼ください)

- ハンドルの固定は確実か？
- ハンドルの回転はスムーズか？
- はめ合わせ限界標識が、見えていないか？
- ハンドルが前輪に対して直角か？
- ハンドルが左右方向に 60 度以上回転するか？



⑩ フロントリフレクター一体型バッテリーライト(調整は販売店にご依頼ください)

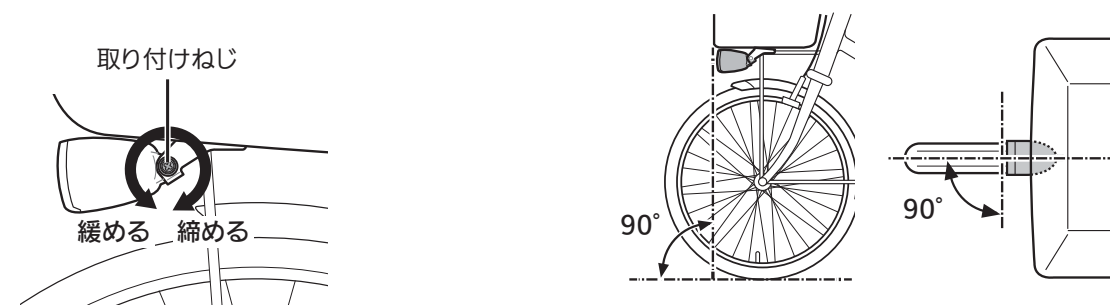
- 点灯するか？
- 取り付け角度は適切か？
- 割れやがたつき、汚れは無いか？
- コードにたるみ・断線・損傷は無いか？
- 反射面が地面および前車輪に対して直角になっているか？



乗るまえの点検と調整(つづき)

〈ライトの角度〉

フロントリフレクター反射面を地面に対して垂直になるように調整をすると、ライト照射角度も適正になります。



使用工具：スパナ(10 mm) またはボックスレンチ(10 mm)
締付トルク：(6 ~ 7) N・m{(60 ~ 70)kgf・cm}

お願い

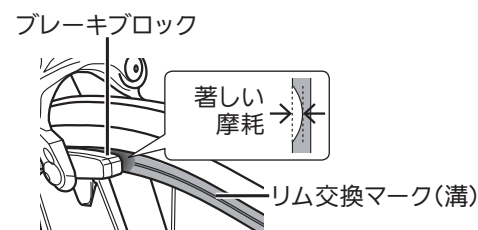
- 対向者(車) にまぶしくならない角度に調整してください。

お知らせ

- 内部の LED は、基板直付けのため交換できません。

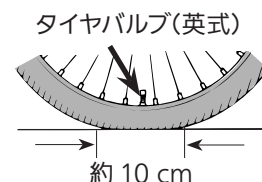
⑰ 車輪部〈前・後〉

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> タイヤに摩耗・切傷は無いかな？ | <input type="checkbox"/> リムに振れ、変形は無いかな？ |
| <input type="checkbox"/> 車輪の固定は確実かな？ | <input type="checkbox"/> リム(アルミリム) が摩耗し、リム交換マークが消えていないかな？ |
| <input type="checkbox"/> タイヤに異物は付いていないかな？ | |
| <input type="checkbox"/> スポークに曲がり・切れ・緩みは無いかな？ | |
| <input type="checkbox"/> 空気圧は適正かな？ | |



〈タイヤの適正な空気圧〉

自転車に乗った状態での適正な接地部の長さは、右図のとおりです。



お願い

- 圧力計の付いたポンプで空気を入れる場合は、(300 ~ 400) kPa{(3.0 ~ 4.0)kgf/cm²} の数値内になるように入ってください。圧力計の無いポンプで空気を入れる場合は上記イラストの接地部の長さを参考にしてください。
- タイヤの空気圧は 300kPa{3.0 kgf/cm²} 未満では使用しないでください。タイヤのひび割れ、偏摩耗やパンクの原因になります。
- 上記の空気圧は体重 65 kg 程度の方が乗車された場合の適正な空気圧です。重い荷物を載せて走行する場合は、通常より高い空気圧(400 ~ 450) kPa{(4.0 ~ 4.5)kgf/cm²} にて使用してください。
- タイヤにガソリン・有機溶剤・油類が付着したときは、すぐにふき取ってください。
- タイヤはストーブなどの熱源の近くに置かないでください。
- リム交換マークが見えなくなったら新しいリムと交換してください。

お知らせ

- 長期間使用しない場合は、空気圧は自然に減ります。
- アルミリムの場合、ブレーキをかけることによりリム表面は摩耗します。

⑱ チェーン(調整は販売店にご依頼ください)

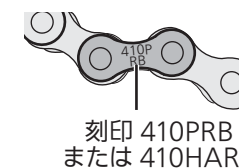
- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 空回りしないかな？ | <input type="checkbox"/> たるみが大きくないかな？ |
| <input type="checkbox"/> 小石などが挟まってないかな？ | <input type="checkbox"/> さびていないかな？ |
| <input type="checkbox"/> 歯飛びや異常な音(バリバリ音など)は無いかな？ | <input type="checkbox"/> チェーンケースに接触していないかな？ |
| <input type="checkbox"/> 油切れはしていないかな？ | |

〈チェーンのたるみについて〉

走行中、チェーンの周りから異常な音がする場合は、チェーンが伸びているか、テンションプーリーが固着しているときがあります。販売店に点検・調整・交換をご依頼ください。

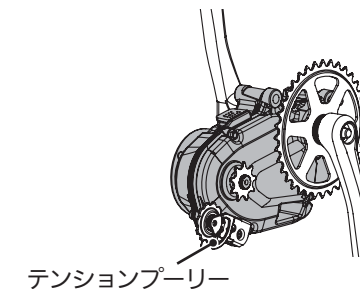
お願い

- この自転車は電動アシスト自転車用に耐久性を高めた強化チェーンを使用しています。チェーンを交換する際は、必ず刻印のある純正チェーン(当社品番：NGC013-118 (右図))を使用してください。



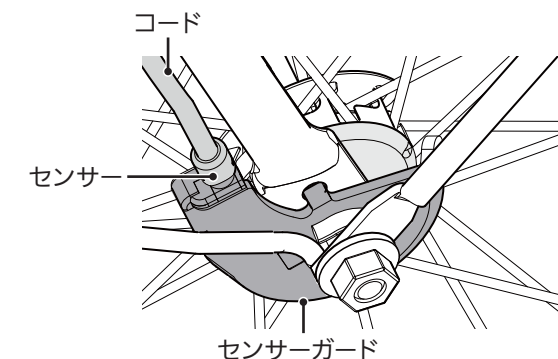
⑳ 駆動ユニット

- 駆動ユニットがフレームに対してがたついていないかな？
- テンションプーリーは円滑に動作するか？



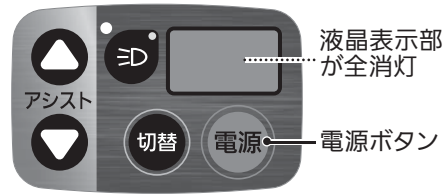
㉕ スピードセンサー(調整は販売店にご依頼ください)

- センサーの固定は確実かな？
- コードに断線や損傷は無いかな？
- コードはしっかり固定されているかな？
- 車輪を回転させたときに、異常は無いかな？



充電しましょう

1. 電源ボタンを押して電源を切る

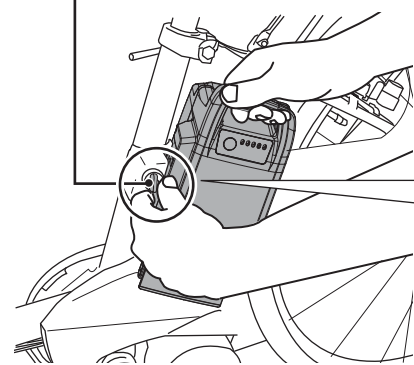


お知らせ

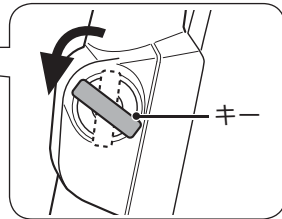
- 電源を切らないでバッテリーを外すと故障の原因になります。

2. バッテリーロックを外し、バッテリーを取り外す

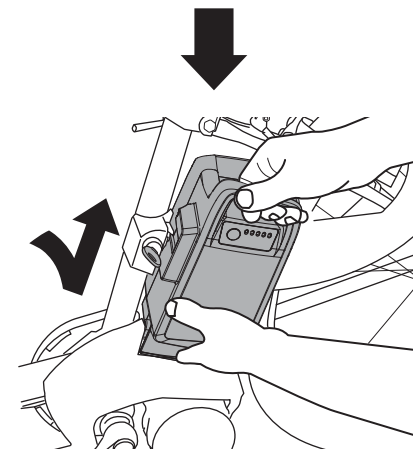
バッテリーロック



- ① バッテリーロックにキーを差す
- ② バッテリーを支えながら、キーを反時計方向に止まるまで回しロックを解除する
・キーは解錠状態のまま固定できます。



- ③ バッテリーを両手で支えながら、引き上げて外す
- ④ キーを時計回りに止まるまで戻してから、引き抜く



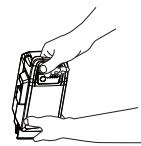
注意



■バッテリーを幼児の手の届く所に置かない*



■バッテリーを支えてからキーを回す*
■バッテリーは両手で扱う*

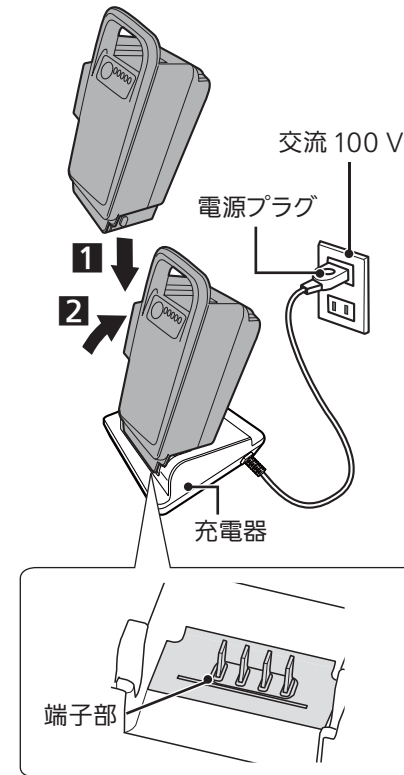


※(落下して、けがをするおそれ)

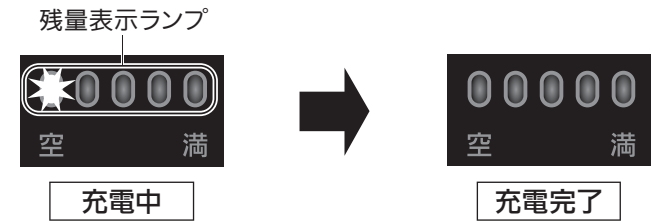
お願い

- バッテリーを取り外したあとは、キーを抜いて保管してください。

3. バッテリーを充電器にセットする



- ① 電源プラグをコンセント(交流 100 V) に差し込む
- ② バッテリーを上から入れ(1の方向)、奥に倒す(2の方向)
・バッテリーの残量状態が表示(40 ページ) されて、充電が始まります。充電が完了すると、残量表示ランプは消灯します。



※充電時間の目安は仕様(64 ページ) をご覧ください。

注意



- 寝ているそばでは充電しない*
- 充電中は長時間、充電器・バッテリーの同じ場所に触れない*
※(低温やけどのおそれ)
- 熱に弱い床材などの上で充電はしない
(床材などの変色等のおそれ)
⇒充電する場合は断熱材等で床などを保護してください。

お願い

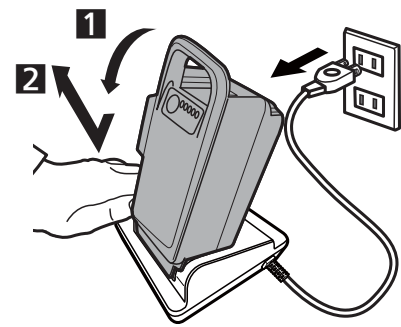
- 白木や畳、塩化ビニール(プラスチックシート貼りの材料)、プラスチックなどの熱に弱い材質の上でご使用の場合は、断熱のためのシート(耐熱温度 100℃以上) をお使いください。耐熱性の低いシートを使用しますと、本体の熱によりシートが溶けて本体や床等に固着したり、本体や床材等を痛める原因となりますので、使用しないでください。

お知らせ

- 家庭用の交流 100 V 電源以外(車載用など) から充電すると、充電器が高温になったり、故障するおそれがあります。
- 充電器のプラグをコンセントに差し込むと、火花が発生する場合があります。回避方法としてスイッチ付電源タップをご使用になることをお勧めします(59 ページ)。
- 走行直後などバッテリー内部の温度が上昇しているときは、充電できないことがあります。バッテリー内部の温度が規定温度まで下がれば、充電を開始します(周囲の温度により、充電開始までに 1 ~ 2 時間かかる場合があります(58 ページ)。
- バッテリーは充電待機中、自動で残量表示ランプ 1・3・5 番目が同時点滅するモデルがありますが、異常ではありません。
- バッテリー容量により、最後の残量表示ランプが全点灯から消灯に変わるまでの時間は異なります。

充電しましょう(つづき)

4. バッテリーを充電器から外す



- ① 充電器を手で押さえ、バッテリーを手前に倒して(1の方向)、取り外す(2の方向)
- ② コンセントから電源プラグを抜く



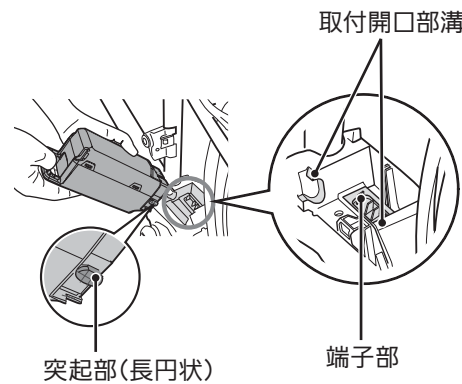
注意



■充電器を手で押さえながらバッテリーを外す
(充電器が落下し、けが・破損のおそれ)

必ず守る

5. バッテリーを自転車に取り付ける



- ① バッテリーロックにキーが差し込まれている場合は、抜く
- ② バッテリーを残量表示ランプのある面を手前にして両手で持つ
- ③ バッテリーを手前に倒しながら、取付開口部の溝とバッテリーの突起部(長円状)を合わせる
- ④ バッテリーを起こして、しっかりと最後まで押し込む
- ⑤ 最後に手前に引いて、外れないことを確認する



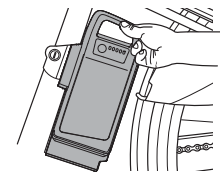
警告



■確実に自転車に装着されているか確認する

必ず守る

(走行中に脱落し転倒したり、足の上に落下したり、けがのおそれ)
⇒必ず手前に引いて外れないか確認してください。



注意



■バッテリーとフレームの間に指を入れない
(指を挟み、けがをするおそれ)

禁止

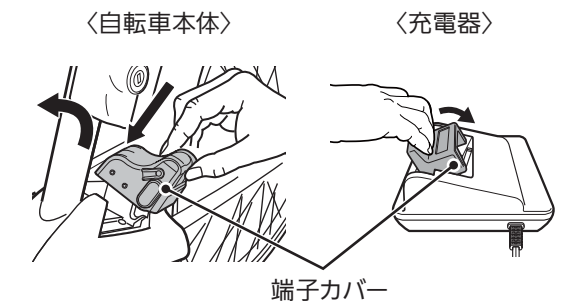
充電するときのポイント

お願い

- 初めて乗る場合や、1か月以上乗車していないときは、必ず充電してください(出荷時は、満充電していません)。
- 充電器は5℃～35℃の場所に設置してください。
- バッテリーの温度が0℃以下または充電する場所との温度差が大きい場合は、十分に充電できていない場合があります。その場所で1時間以上放置してから充電してください(59ページ)。
- 雨天走行後に充電するときは、水分をふき取ってから充電してください(充電器内に水が入って故障の原因になります)。
- 充電器は、必ず、外装箱から出して、ご使用ください(充電中の熱により、ケースなどが変形するおそれがあります)。
- じゅうたんや不安定な床材などの上では使用しないでください。
- 使用しなくても、半年に1回は充電してください(61ページ)。
- テレビ・ラジオなどのそばで充電した場合、雑音が入ったり、テレビの画面がちらついたりする場合があります。その場合は、電化製品から離して(コンセントを変えるなど)充電を行ってください。
- 自転車本体もしくは充電器の端子部にほこりがたまらないよう、ご注意ください。長時間バッテリーを取り外したままにするときは、それぞれの端子部に端子カバー(別売品 66ページ)をかぶせておくことをお勧めします。

お知らせ

- バッテリー保護のために、満充電からの再充電はできません。
- バッテリーの温度が低温・高温時ともに充電時間は長くなります。
- 充電中に充電器が熱くなりますが、異常ではありません。

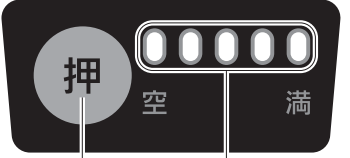

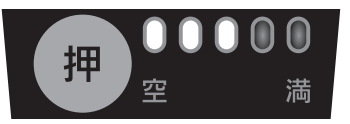
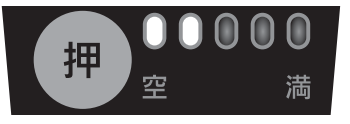





充電しましょう(つづき)

■バッテリーの残量について

●走行まえに、バッテリーの残量と目的地までの距離をよく確認してください。

バッテリーの残量表示ボタンを押すと、残量表示ランプで残量をお知らせします(あくまでも目安としてご使用ください)。

バッテリー部 残量表示ランプの表示状況	バッテリー残量 20 40 60 80 100 %	目安
LED ランプ 5 つとも点灯  残量表示ボタン 残量表示ランプ	81% ~ 100%	アシスト走行できます 満充電からスイッチの電源を入れて走行すると、1灯ずつ点灯数が減ります。
LED ランプ 4 つ点灯 	61% ~ 80%	
LED ランプ 3 つ点灯 	41% ~ 60%	
LED ランプ 2 つ点灯 	21% ~ 40%	充電時期のお知らせ そろそろ充電してください。 アシスト力が徐々に低下する場合があります。
LED ランプ 1 つ点灯 	11% ~ 20%	
LED ランプ 1 つ点滅 	0% ~ 10%	
LED ランプ 1 つ点滅 	0%	アシスト走行停止 充電してください。 充電しない場合はアシスト無しの自転車として走行できます。

お知らせ

- バッテリーが新品のときや、長期間使用されていないとき、厳寒の日や急な坂を登ったときは、まれに残量表示ランプが点灯していても、アシスト力が働かないことがあります。このようなときは、再度充電してください。
- バッテリー残量が少ない状態で一定期間放置すると保護回路が働き、電源が入らなくなる場合があります。その場合はバッテリーを充電器にセットすると解除されます。

手元スイッチの液晶表示でも、残量が確認できます。

手元スイッチ 液晶表示部の表示状況	バッテリー残量 20 40 60 80 100 %	目安
90% オートマチック 100% オートマチック アシストモード表示	81% ~ 100%	アシスト走行できます バッテリー残量が、100パーセントから21パーセントの間は10パーセントずつ表示が減ります。
70% オートマチック 80% オートマチック	61% ~ 80%	
50% オートマチック 60% オートマチック	41% ~ 60%	
30% オートマチック 40% オートマチック	21% ~ 40%	充電時期のお知らせ 20パーセントから5パーセントまでは1パーセントずつ表示が減ります。 アシスト力が徐々に低下する場合があります。
11% オートマチック ~ 20% オートマチック	11% ~ 20%	
5% オートマチック ~ 10% オートマチック 数値点滅	5% ~ 10%	
0% オートマチック 数値点滅 ザンリョウナシ表示: アシスト停止	0% ~ 4%	アシスト走行停止 充電してください。 充電しない場合はアシスト無しの自転車として走行できます。

お願い

- 残量表示の精度を低下させないため、数か月に1度は「0%」の表示が点滅するまで使い切ってください。

お知らせ

- 残量が0パーセントから4パーセントまでは「0%」の点滅表示になります。
- 手元スイッチの液晶表示部は、残量が0(空)になると、アシストモード表示が「ザンリョウナシ」になります。

荷物やお子様を乗せるとき

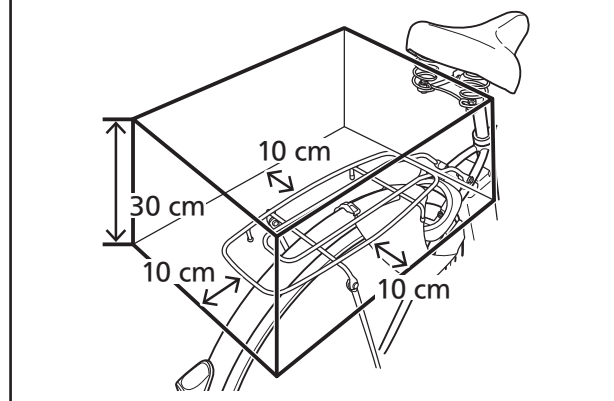
さあ、乗りましょう！

■積載条件

	最大積載質量	積載物の大きさ限度
バスケット	3 kgまで	バスケットにおさまる大きさ(前方が見やすい高さまで)
リヤキャリア	27 kgまで(クラス表示 27) ・チャイルドシートの質量と幼児の体重を合わせて 27 kgまで乗せることができます。	幅 : リヤキャリアの幅プラス左右各 10 cm まで 長さ : リヤキャリアの長さプラス 10 cm まで 高さ : リヤキャリアから 30 cm まで

お願い

- 荷物の運搬には、バスケットおよびリヤキャリア以外は使用しないでください。
- 最大積載質量以上の荷物を積まないでください。劣化度合が大きくなり、場合によってはバスケット、リヤキャリア、フレームなどが破損するおそれがあります。
- リヤキャリアを交換される場合は、当社純正 NCR1712 をご使用ください。当社の純正部品以外をご使用になり、不具合が生じた場合は、保証の対象外になります。
(純正以外の部品を取り付けられた場合、強度の不足や、操縦性の低下による転倒のおそれがあります)



お知らせ

- 荷物の積載量が増えると、バッテリーの電力消費が増え、アシスト走行できる距離が短くなります。また、タイヤなどの消耗品の劣化が激しくなります。
- 荷物を満載していたり、子供を同乗させている場合と、空荷や子供を載せていないときでは、操舵性や制動性能が異なります。
- バスケット内にカバンなどを入れた場合、材質によってはカバンにバスケットの色が移ったり、汚れや擦れ傷が付くおそれがあります。

■チャイルドシートについて

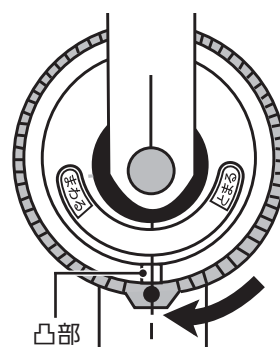
お願い

- くるピタ装着車のため、ハンドル取付タイプのチャイルドシートは取り付けられません。
- チャイルドシートは当社の純正チャイルドシートをご使用ください(当社の純正部品以外をご使用になり、不具合を生じた場合は保証の対象外となります)。
- チャイルドシートを取り付ける場合は付属(未組付)のドレスガードを組み付けてください。
- チャイルドシートの取り付けは本紙やチャイルドシートの取扱説明書の記載に従い、販売店にご依頼ください。
- 同乗させる幼児の年齢は、各都道府県で決められていますので、お住まいの警察署等にご確認ください。

お知らせ

- この自転車は、幼児 2 人同乗用自転車ではありません。リヤキャリアに別売品のチャイルドシートを取り付け、幼児 1 人を乗せることができます。リヤキャリアには、チャイルドシートの質量と幼児の体重を合わせて 27 kg まで乗せることができます。ただし、チャイルドシートの取扱説明書に体重制限がある場合は、チャイルドシートの取扱説明書に従ってください。
 - お子様の適用範囲の記載および取扱説明書の記載を守らない場合や、小学生以上の児童を同乗させることは、道路交通法違反となり、SG マーク制度の賠償対象外となるおそれがあります。
 - 16 歳未満の方は、幼児を乗せて使用することは法令で禁止されています。
- ※チャイルドシート(別売品)に貼付された SG マークは、チャイルドシートの欠陥によって発生した人身事故に対する補償制度です(新品で購入した日より 3 年間)。

1. 前車輪旋回抑制機構(くるピタ)のロックを解除する

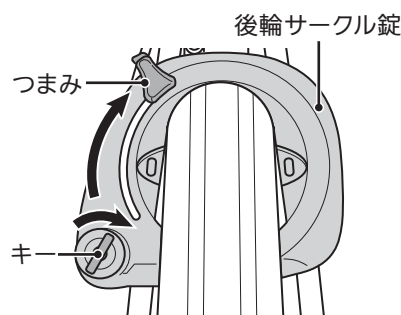


- ① リングの赤い●印を時計方向(まわる側)に回らなくなるまで回す

お願い

- ロック解除後は、ハンドルがスムーズに動くか確認してください。

2. 後輪サークル錠を解錠する



- ① 後輪サークル錠にキーを差し込み、時計方向に回す
・つまみがスライドし、解錠します。

お願い

- 必ずスタンドを立てた状態で、解錠してください。解錠せずスタンドを上げると、スポークと後輪サークル錠が接触し、スポークや錠前または、錠前を取り付けるフレームの台座が変形・破損するおそれがあります。

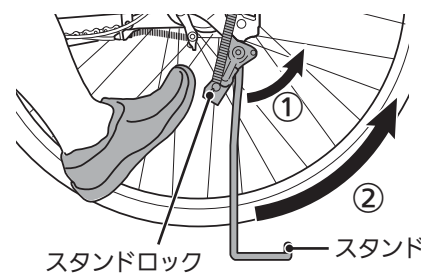
⚠ 注意



■キーを回すとき、つまみに指を近づけない
(衝撃でけがをするおそれ)

禁止

3. スタンドを上げ、乗車する



- ① スタンドロックを足で押して解除する
- ② スタンドを後方へ完全にはね上げる

お願い

- スタンドロックを押しながら、スタンドを後方へはね上げないでください。故障の原因となります。

さあ、乗りましょう!(つづき)

4. ペダルを踏まずに電源を入れる



- ① 手元スイッチの電源ボタンを長押しする(約1秒)
・液晶表示部に「888」が表示され、電源がONになります。
約1秒後にバッテリー残量表示(%)に切り替わります。

お願い

- 「888」表示の間は駆動ユニットの初期化をしているので、ペダルを踏まないでください。ペダルを踏みながら電源を入れると、ペダル入力小さい状態と誤検知され、走行時にアシスト力が弱くなります(故障ではありません)(☞57ページ)。
- 電源ボタンを長押ししても手元スイッチの液晶表示部が点灯しないときは、バッテリーの充電や固定が確実にできているかを確認してください。
- 走行途中には電源を入れないでください。



お知らせ

- 電源が入った状態で10分以上車両を放置すると、自動的に電源が切れます(オートオフシステム)。再度走行するときは、電源を入れてください。

5. サドルに座り発進する



- ・ハンドルをしっかり握り、前後左右の安全を確認してから、発進してください。
- ・発進すると電動アシストシステムが働き、作動音がします。

警告



禁止

■けんけん乗り(けり乗り)しない

(転倒や接触事故によるけがのおそれ)
⇒ペダルを強く踏めば、モーターがそれに応じて強いアシスト力を出すため、乗り込む際に自転車が飛び出し、危険です。必ずサドルにまたがって、発進してください。



- けんけん乗り(けり乗り)とは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動を付けてサドルにまたがる乗りかたです。

注意



禁止

■バッテリーロックにキーを付けたまま走行しない

(足に当たってけがをするおそれ)

お願い

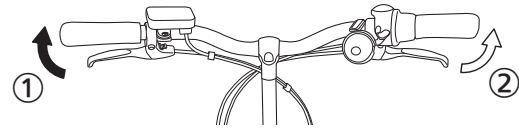
- 慣れるまでは、踏み始めおよび坂道を上がり終えた直後のアシスト力に注意してください。
- 土踏まずやかかとでペダルをこがないでください。
- 停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せないでください。
- 走行中に異常な音がした場合は、乗車を中止し販売店へ相談してください。

お知らせ

- 走行中は、ラジオなどに雑音が入る場合があります。
- ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、駆動ユニット固有の特性によるもので、故障ではありません。
- スピードメーターなどのワイヤレス式の機器を使用すると、誤表示となる場合があります。

さあ、乗りましょう!(つづき)

ブレーキのかけかた



- ① 先に、左手のブレーキ(後ブレーキ)をかけてから
- ② 右手のブレーキ(前ブレーキ)をかける



禁止

- 雨天時や下り坂ではスピードを出さない
(制動距離が長くなったり、スリップしやすくなったりするため、衝突や転倒によるけがのおそれ)
- 前ブレーキだけを強くかけない
(車輪がロックし、自転車が前方に転倒し、けがのおそれ)

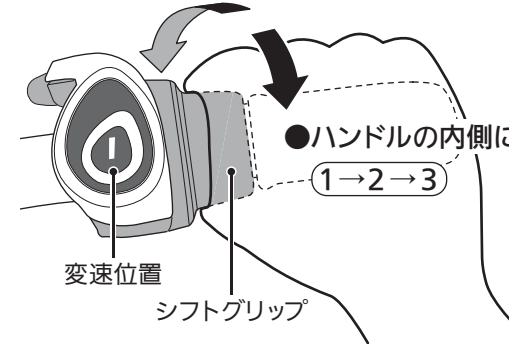
お願い

- 急ブレーキをかけなくても良いように、いつも前方に注意してください。
- 下り坂の手前では、ブレーキテストを行ってください。
- 下り坂のときは、適時ブレーキをかけながら速度が出すぎないように走行してください。
- 急な坂道のときは、降りて押してください。

変速のしかた

- ハンドルの外側に回すと…

3→2→1



- ハンドルの内側に回すと…

1→2→3

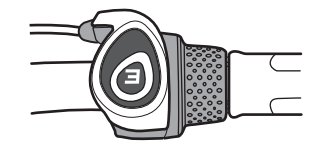
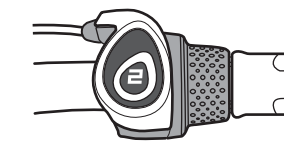
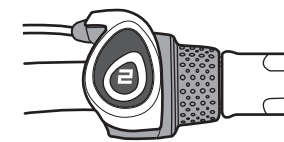
- ① 足を止めるか踏む力を抜いて、シフトグリップを1段ずつゆっくり回す
・位置決めの軽い手ごたえがあるまで回してください。

変速位置	ペダルの回転が
1	軽くなる
2	↑ ↓
3	

お願い

- 変速操作は、よく練習してください。
- シフトグリップを無理に回す変速はしないでください。また、変速するときは、足を止めるか踏む力を抜いてください(変速機を傷める原因になります)。

●変速機の上手な使いかた



シフトを2(または3)の位置に合わせる

上り坂の手前で…

シフトを2(または1)の位置に合わせる

下り坂の手前で…

シフトを3の位置に合わせる

安全に走行するために、発進するときや、きつい上り坂の手前では、シフトを1に合わせてください。


お願い

- 上記は推奨変速位置です。標準的な変速位置を示していますが、自分の体調や脚力に合わせて、適切な変速位置をお選びください。
- 長期間変速しない場合(保管時含む)や、極端な低温でのご使用で変速ワイヤが固着し変速できなくなることがあります。走行まえには正しく変速することを確認してください。また固着を防止するためにも、走行時はこまめな変速をこころがけてください。
- 安全に走行するには…
 - 軽めの変速位置を選んでください(特に発進と上り坂)。
 - 変速機やアシストモードは、坂や風の状態、体調などによって、最適の位置を選んでください。
 - タイヤの空気圧はいつも適切にしてください(34ページ)。

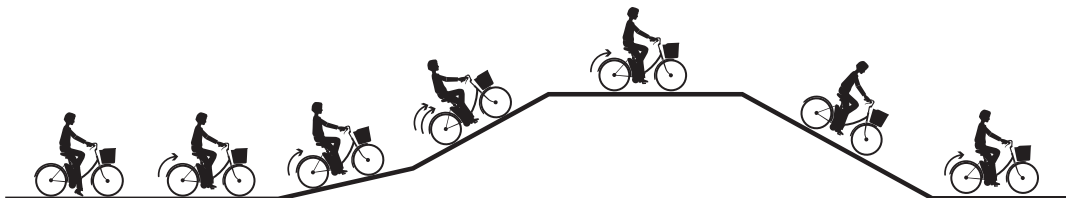
さあ、乗りましょう!(つづき)

アシストの強さを変える

手元スイッチに電源が入った状態で、アシスト切替ボタンを押すと、アシストモードの切り替えができます。

アシストモード	
 <p>① ↑ ↓ ②</p>	<p>「パワー」……常にパワフルなアシスト力で、坂道や重い荷物を積んでいるときでも快適な走行ができます。</p> <p>「オートマチック」……走行条件により、アシスト力を自動的にコントロールします。</p> <p>「ロング」……走行条件により、アシスト力を自動的にコントロールし、さらにアシスト力を抑え、1回の充電で長距離走行が可能です。</p>

●アシスト力の変化



モード設定/走行条件	スタート	平地	上り坂	急な上り坂	平地	下り坂	平地
『パワー』	強	強	強	強	強	アシストOFF	強
『オートマチック』	強	中	強	強	中	アシストOFF	中
『ロング』	中	弱	中	中	弱	アシストOFF	弱

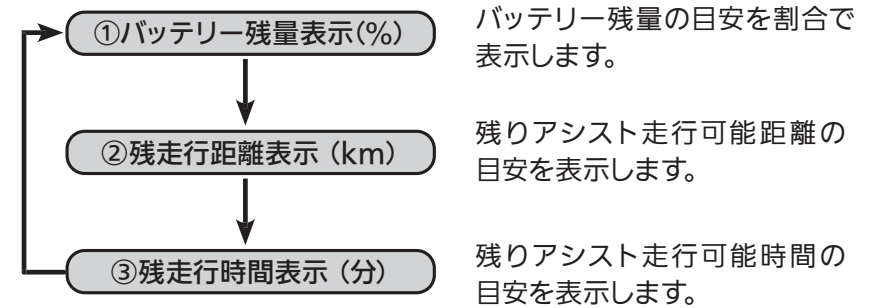
お知らせ

- 坂道や重い荷物を載せて走行するときは、アシスト切替ボタンを押し、「パワー」にしてください。
- 電源を入れたときは、前回電源をOFFしたときのモードで起動します(オートメモリー機能)。
- 下り坂などでペダルが軽くなると、すべてのモードで自動的にモーターが止まり無駄な電力消費を抑えます。
- アシスト切替ボタンを何度か押すことで、アシストモードを一巡することはできません。

あとどれくらい走れるかを見る

手元スイッチに電源が入った状態で、液晶表示切替ボタンを押すと、「バッテリー残量表示」→「残走行距離表示」→「残走行時間表示」の順で、データを表示できます。

●液晶表示部の表示例



表示項目	表示例	表示例の説明
①バッテリー残量表示(%)		バッテリー残量が、100パーセント満充電状態です。
②残走行距離表示(km) (残りアシスト走行可能距離)		残り30 kmアシスト走行可能です。 ※選択するアシストモードや実際の走行状況によって変わります。
③残走行時間表示(分) (残りアシスト走行可能時間)		残り128分アシスト走行可能です。 ※選択するアシストモードや実際の走行状況によって変わります。

上記内容は表示例であり、実際の表示とは異なる場合があります。

●1 満充電当たりの走行距離を確認したい場合

- ① バッテリーを満充電にして自転車に装着してください。
- ② 液晶表示切替ボタンで残走行距離表示にして、走行距離を確認してください。表示値は目安としてご使用ください。実際の走行状況により、50ページの測定値とは異なります。

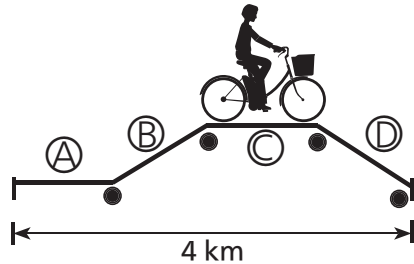

お知らせ

- 電源を入れたときは、「バッテリー残量表示」から表示します。
- 残走行距離表示や残走行時間表示は目安となる数字です。実際の走行状況により異なる場合があります。
- 満充電時の残走行距離表示、残走行時間表示は、バッテリーの劣化状態(バッテリーは充放電を繰り返すと徐々に能力が低下し、走行できる距離が短くなります)により、最大値が小さくなります。

さあ、乗りましょう!(つづき)

走行できる距離の目安

● 1回の充電で走行できる距離の目安は下表のとおりです。

走りかた	走行条件		走行距離(km)					
			20	40	60	80	100	
標準パターン (業界統一テスト条件)* 	標準パターン(4 km) ①は、平坦路 1 km、 変速 ③、15 km/h ②は、4 度坂 1 km、 変速 ②、10 km/h ③は、平坦路 1 km、 変速 ③、15 km/h ④は、4 度坂 1 km、 変速 ③、20 km/h ●印は 10 秒間の停止を表す	パワー	59 km					
		オートマチック	70 km					
	ロング	107 km						
	4度登坂連続パターン 	4 度坂、変速 ②、10 km/h	パワー	20 km				
			オートマチック	24 km				
			ロング	33 km				

●測定方法 一般社団法人自転車協会が定める、『電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準(2010年4月1日施行)』に基づき測定

※一般社団法人自転車協会が定める、『電動アシスト自転車の走行距離の測定方法に関する基準』に準拠したテスト条件。









先に記載している、1満充電当たりの走行距離の測定条件は、以下のとおりです(業界統一テスト条件)。

- 1) 環境温度は 20 ± 5 °C、無風の状態
- 2) バッテリーは新品を用い、バッテリーライトは消灯状態
- 3) 車載重量(乗員と荷物の合計)は 65 kg
- 4) 路面は乾燥した平滑な路面
- 5) タイヤ空気圧はタイヤ側面に刻印されている標準空気圧
- 6) シャーシダイナモ(室内計測機)による計測

●各アシストモードの詳細については、48 ページをご覧ください。

●走行距離は、バッテリーの劣化度合や、発進停止・徐行後の加速・登坂路走行の頻度により短くなります。また、冬期など気温が低いときにも短くなります。

●走行距離が短くなる環境 / 使いかた

 冬期、寒いとき※1	 坂道が多いとき	 向かい風が強いとき※2 や 走行速度が速いとき	 ペダルが重くなる走りかた (例: 重い変速位置 [ギヤ] で 走行) 急加速をしたとき
 乗員体重、積載質量(荷物)が 重いとき※3	 発進、停止、加減速の 回数が多いとき	 路面の状態が悪い (凸凹道) とき	 タイヤの空気圧が 低下しているとき

※1 冬期(寒い環境 約 5 °C 以下) では、バッテリーの性能が低下し、走行距離が大幅に短くなることがあります。
⇒バッテリーを暖かい室内で保管し、使用するときだけ自転車に装着することで、性能低下を軽減することができます。

※2 風速 2 m/s の向かい風中を走行した場合、約 40 パーセント、走行距離が短くなります。

※3 積載質量(乗員体重)が 10 kg 増えた場合、約 10 パーセント、走行距離が短くなります。

●バッテリーは消耗品です。使いかたによっては 3 年程度で容量が半分以下になる場合があります。1 回の満充電で走行できる距離が著しく短くなったり、走行できなくなったときはバッテリーの寿命ですので交換が必要となります。

●バッテリーは使用しなくても少しずつ自然放電し、目安の走行距離まで走れないことがあります。

⇒乗車まえにバッテリーの残量確認を心掛けてください。

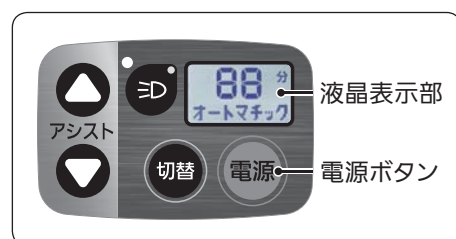
●そのほかにも、走行距離は、気象条件、路面の状況、自転車の整備具合、自転車の乗りかたなどにより、大幅に短くなることがあります。

●次のようなときはアシスト力は働きません。

- ・速度が 24 km/h 以上のとき。
- ・ペダルを踏む力が弱いとき、または、ペダルの回転を止めているとき。

駐輪・施錠のしかた

1. 自転車から降りるまえに、手元スイッチの電源を切る



- ① 手元スイッチの電源ボタンを押す
・液晶表示部が消灯し、電源が OFF になります。

お知らせ

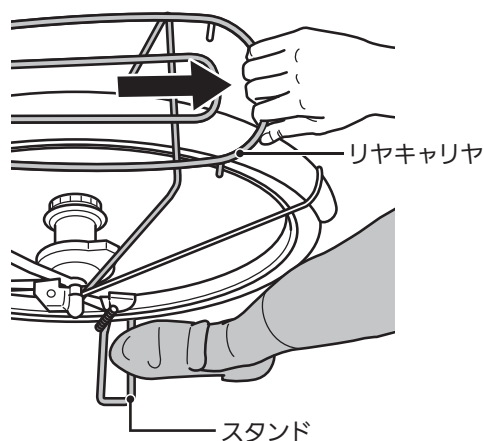
- バッテリーライト点灯時、電源を切ると、ライトは消灯します。

注意

- 走行直後は、ブレーキ部に手を触れない
(ブレーキ部が高温になり、やけどの原因)
接触禁止



2. 駐輪する

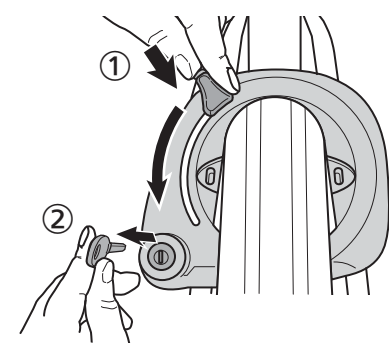


- ① ブレーキレバーを握ったままサドルから降りる
- ② スタンドを足で踏みながら、リヤキャリアを手で引っ張り、スタンドを立てる
・スタンドロックが自動的にかかります。

お願い

- スタンドを立てた状態で、無理な力を加えないでください。
(サドルを持って自転車を持ち上げたり引きずったり、重いものを乗せたりしないでください)
- 転倒等によりスタンドが変形した場合、オートロック機構が作動しない場合があります。スタンドを立てたときにロックが働いているか確認してください。

3. 後輪サークル錠を施錠する

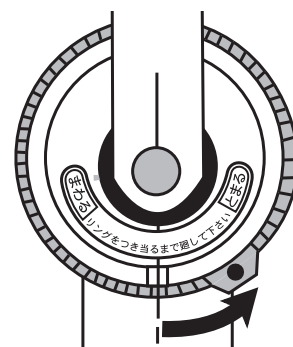


- ① 後輪サークル錠のつまみを押し込みながら、下へ止まるまで回す
- ② キーを抜く

お願い

- 必ず車輪の回転が止まってから、後輪サークル錠を施錠してください。スポーク・後輪サークル錠が接触すると、スポークや錠前または錠前を取り付けるフレームの台座が変形・破損するおそれがあります。
- 盗難防止のため、キーを付けたまま駐輪しないでください。
- 駐輪場など、決められた場所に駐輪してください。

4. 前車輪旋回抑制機構(くるピタ) をロックする



- ① リングの赤い●印を反時計方向(とまる側) に回らなくなるまで回す。

お願い

- リングを反時計方向(とまる側) に回しても止まらない場合は、ハンドルを少し動かしながらリングを回し止めてください。

お手入れについて

■日常のお手入れ

- 乾いた布やブラシで、泥や土、ほこりを落としてください。
- がんな汚れには、台所用洗剤(中性)を薄めてご使用ください。



■次のような場所では、

〈湿気が多い場所・海岸沿い・工場地域・エアコンの室外機のそば・自動車の排気ガスのかかる所・鉄道の線路際など〉

- さびやすいので、お手入れの回数を、多くしてください。

■ステンレス部品

- ステンレスはさびにくい金属ですが、使用条件や環境によってさびることがあります。下記の点にご注意の上ご使用ください。

○ステンレスに付着した鉄粉などがさびることによって「もらいさび」が発生しますので、お手入れを頻繁に行ってください(例：鉄道や鉄工所の近辺での保管車、後車輪周りのステンレス部品など)。

○ステンレスは塩素にも弱く、さびることがあります。塩分や塩素系の洗浄剤が付着したときは、乾いたあとでもさびが発生しますので、水を含んだ布などでしっかりふき取ってください。

お願い

- 本自転車は生活防水性能を備えていますが、駆動ユニットやバッテリー、手元スイッチ、バッテリーライトなどの電装部品や回転部(前後ハブ、ヘッド部など)にはホース先端をすぼめて圧力のある水を直接かけての洗車や、高圧洗浄機やスチーム洗車機を使った洗車はしないでください。水が入った場合、故障の原因となるおそれがあります。万一、駆動ユニット、バッテリーなどが水につかった場合は、直ちに使用を中止して販売店にご相談ください。
- 融雪剤や農薬を散布した道路を走行後、または台風が通過したあとなどは薬剤や塩分の影響により、自転車のステンレス部品にもさびが生じることがあります。このような場合、水道水で薬剤や塩分を流していただき、乾いた布でふき取るようにしてください。
- 長期間ご使用になった場合、車体側接続端子の表面に汚れや酸化物が付着し、バッテリー端子との滑りが悪くなり、バッテリーの取り外しが固くなる場合があります。バッテリーの取り外しが固くなったときは、乾いた布で車体側接続端子の汚れや酸化物をふき取ってください。このとき、金属製のものは使用しないでください。ショートして感電・火災のおそれがあります。ふき取っても汚れが取れないときは、販売店に依頼し、車体側接続端子を交換してください。
- バッテリーケースの汚れは、水を含んだ布などでふき取ってください。
- シンナー・ベンジンなどの有機溶剤、ガソリンなどの石油類薬品、酸性・アルカリ性の洗剤などは使用しないでください(塗装がはげたり、樹脂製部品が浸食されたりします)。
- サドルには、ワックスをかけないでください(座ったとき衣服が汚れたり、滑ったりします)。
- 雨天走行後は、リム側面のブレーキブロック接触面の砂や泥をふき取ってください(黒く変色するのを防ぎます)。
- 定期的にリム側面の清掃を行ってください。清掃しないと、ブレーキとの擦れくずや汚れなどが飛び、衣服が汚れるおそれがあります。

注油について

注油場所と注油禁止場所



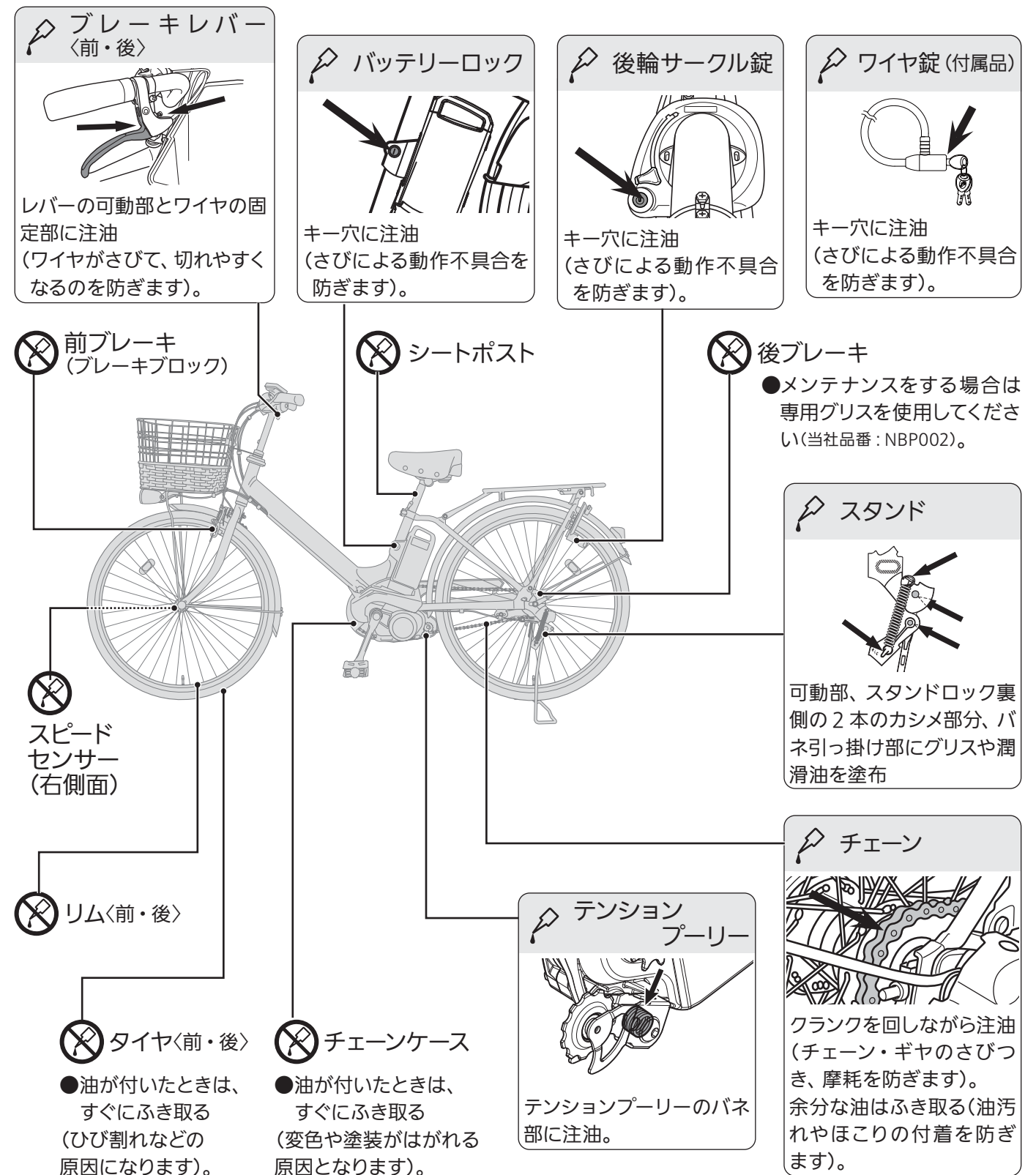
このマークは、注油場所を示します。



このマークは、注油禁止場所を示します。

お願い

- 油の種類は、必ず、自転車用油を使用してください。(食用油などは、硬化するおそれがあります)
- 余分な油は、乾いた布でふき取ってください。



盗難補償優遇制度について

電動アシスト自転車をお買い求めいただいたお客様で、ご購入日より3年以内に盗難にあわれた場合、盗難補償優遇制度が適用されます。盗難補償優遇制度とは、盗難車本体(充電器を含む) 希望小売価格(税込)の30パーセントとその組立手数料4,400円(税込)で、盗難車と同タイプの新車をお買い求めいただくことができる制度です。制度の詳細は下記のとおりです。

ご購入時、CLUB Panasonicにて商品登録をいただくか、商品登録はがきに必要な事項をご記入の上、パナソニック サイクルテック商品登録係にご返送いただいたお客様に限り、次の内容により盗難補償が受けられます。

(1) 盗難補償の期間と範囲

お買い求めの日から3年間の自転車(別売部品などを含む装着部品の盗難は除く)かつ、盗難日より90日以内に申し込みいただいた場合に限りです。

(2) 盗難補償の内容

- お客様のご負担 ①充電器を含む本体希望小売価格(税込)の30パーセント
②組立手数料 4,400円(税込) 2021年12月現在

(3) 盗難補償の申し込み要領

- 提出書類など ①盗難にあった地区の警察署から交付を受けた証明になるもの(警察受理ナンバーまたは盗難届出証明書など)
②盗難車の保証書(原本)
③盗難車の純正キー(3本)
④盗難補償申込書(販売店が用意いたします)
- 申し込み先 お買い求めの販売店へ現金を添えて、お申し込みください。追って、販売店から新車をお渡しいたします。

(4) 盗難車の所有権

盗難補償の申請に必要なもののすべてを販売店が受領した日を申請日とし、申請日の当日から起算して11日目に盗難車の所有権がパナソニック サイクルテック(株)に移転します。そのため、申請日の当日から起算して11日目以降に盗難車が発見された場合、当社は、当該車両の引取りを行って処分いたします(管轄警察署または保管施設から申請者本人の引取りを求められる場合があり、その場合は保管場所から引取りの上、車両を当社に引渡しいただきます)。

申請日の当日から起算して10日目までの期間においては、盗難車(その状態に関わらず)の所有権は申請者に帰属しています。

盗難車が発見された場合、申請者は、本申請をした販売(代納)店へのご連絡、警察へ手配の解除等を速やかに行うこととします。

これらの手続きを行わず、当社の補償を受けられますと、損害賠償請求をさせていただくことがあります。

(5) 盗難補償を受けることができない場合

- ①防犯登録がされていない場合 ⑥(3)の盗難補償の申請に必要なものがそろわない場合
②商品登録されていない場合 ⑦申請日の当日から起算して、10日目までに盗難車が見つかった場合
③施錠せず盗難にあった場合 ⑧盗難補償車が再度、盗難にあった場合
④補償期間が過ぎている場合 ⑨自転車の占有を喪失していない場合
⑤景品などの贈呈品の場合 ⑩盗難以外の理由で自転車の占有を喪失した場合

ご注意

- モデルチェンジや生産中止などによりスペックダウンする可能性がありますので、同タイプの自転車をお届けできない場合がありますことをご承知願います。
- 新車のお届けは在庫状況によりお時間をいただく場合がございます。

故障かな？

まず、次の表に従ってお調べいただき、直らないときは、お求めの販売店に修理をご依頼ください。

症状	対処方法	ページ
ペダルが重い・アシストしない	●バッテリーが確実に取り付けられていますか？ ⇒バッテリーを確実に取り付けてください。	38
	●バッテリーの残量表示ボタンを押したときに、2・4番目のLEDランプが点滅すれば、保護機能が働いています。 ⇒バッテリーを充電してください。	36
	●バッテリーの残量表示ボタンを押しても、LEDランプが点灯しないときは、保護機能が働いています。 ⇒バッテリーを充電してください。 ※充電しても表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	36
	●充電ができていますか？ ⇒バッテリーを充電してください。	36
	●配線が緩んでいたり、端子が汚れていたりしませんか？ ⇒販売店にご相談ください。	—
	●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか？ ⇒電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。	44
充電できない	●停止して10分以上たっていないですか？(オートオフシステム) ⇒電源ボタンを押して、電源を入れ直してください。	44
	●液晶表示部に「アシストナシ」と表示されていませんか？(手動でバッテリーライトを点灯させている場合) ⇒電源ボタンを押して、電源を入れてください。	24
	●バッテリーが充電器に正しく挿入されていますか？ ⇒バッテリーを充電器に正しく挿入してください。	37
	●充電器のバッテリー挿入部が汚れていませんか？ ⇒汚れを取り除いてください。	
	●走行直後ではありませんか？ ⇒走行直後はバッテリーの温度が上昇し、充電できない場合があります。温度が下がるまでお待ちください。 〈バッテリーの残量表示ボタンを押して確認してください。〉	—
	○ランプが5つ点灯のとき ⇒満充電のため、再充電はできません。1度使用してから、充電してください。	
○1・3・5番目のランプが同時に点滅のとき ⇒高温・低温による充電停止です。温度が常温に戻るまでお待ちください。 ○ランプが空⇒満(左⇒右)に1個ずつ流れるように点滅のとき ⇒バッテリーの故障が考えられますので販売店にご相談ください。		

故障かな?(つづき)

症状	対処方法	ページ
充電できない	●高温・低温による充電停止です。 ⇨周囲温度が5℃～35℃の場所で充電している場合は、そのまま充電を続けてください。バッテリーの温度が充電に適した温度になると自動的に充電を開始します。	39
走行距離が短い	●充電ができていますか? ●長期間使用せずに、放置されていませんか? ⇨バッテリーを充電してください。	36
	●初めて使用するバッテリーではないですか? ⇨バッテリーを充電してください。	36
	●道路条件や変速位置、51ページに記載しているような走行により、走行距離が、短くなります。	50
	●冬期は、バッテリーの特性で性能の低下が大きくなります。	51
	●タイヤの空気圧が低下していませんか? ⇨自転車用ポンプを使って空気を入れてください。	34
	●ブレーキの調整は正しくできていますか? ⇨ブレーキの調整を販売店に依頼してください。	31
	●繰り返しの充電や長時間の使用でバッテリーは劣化(性能低下)します。 ⇨1回の充電で走行できる距離が著しく短くなった場合(新品時の約50パーセント以下)は、新しいバッテリーに交換してください。	61
●バッテリーが劣化し、容量が新品時の約50パーセント以下になっています。 ⇨新しいバッテリーに交換してください(故障ではありませんので使用できますが、残量ボタンを押すたびに表示が現れます)。	61	
充電器が熱くなる	●充電中に、充電器が熱くなります(底面は、天面や側面よりも熱くなります)。 ⇨異常ではありません。	—
	●充電器本体が変形などしている場合は異常です。 ⇨直ちに使用を中止し、販売店にご相談ください。	—
バッテリーが熱くなる	●手で触れられないほど熱い場合は異常です。 ⇨直ちに使用を中止し、販売店にご相談ください。	—
充電が完了したのに残量表示ランプが5個全部点灯しない	●充電途中で電源プラグを抜きましたか? ⇨再度充電してください。	36
	●充電器の端子が汚れていませんか? ⇨乾いた布などで清掃してください。	37
	●長期間使用されたバッテリーですか? ⇨バッテリーの寿命です。販売店にご相談ください。	—

必要なとき

症状	対処方法	ページ
充電が完了したのに、車体に搭載すると、手元スイッチの残量が100%にならない	●バッテリーが高温、または低温になっていませんか? ⇨保護機能により充電待機状態になり、満充電されていません。周囲温度が5℃～35℃の場所で充電している場合は、そのまま充電を続けてください。バッテリーの温度が充電に適した温度になると自動的に充電を開始します。	39
充電器のプラグをコンセントに差し込むと火花が散る	●充電器は正常なものでも火花が発生する場合があります。 ⇨電気は直流・交流に関わらず回路が成立する直前(金属が触れる直前)から流れ始めるため、電圧・電流の違いにより必ず大小の火花は出ております。スイッチ付電源タップをご使用の場合、OFFにして接続し、ONにすると火花は発生いたしません。ただし、コンセント端子以外から火花が発生している場合は製品の異常が考えられます。販売店にご相談ください。	37
ペダルに振動を感じる	●ペダルに足を乗せた状態での停車時に振動を感じる場合がありますが、モーター固有の特性です。故障ではありません。	—
明るくなくてもバッテリーライトが自動で消灯しない	●手元スイッチの保護フィルムをはがしましたか? ⇨照度センサーの感度が悪くなる場合がありますので、手元スイッチの保護フィルムをはがしてください。	24
サークル錠が解錠できない	●冬期に雨や雪が直接かかる場所に駐輪していませんか? ⇨サークル錠シリンダー内に入った水分が凍結し、一時的に解錠できなくなることがあります。とけると解錠できます。雨や雪がかかりにくい場所に駐輪してください。	—
自転車をバック(後車輪を逆回転)させると、回転が重い	●駆動ユニットの負荷状態により、車輪を逆回転させた際に、一般の自転車より負荷を感じる場合がありますが異常ではありません(特にバッテリーを取り外した状態や、バッテリーの保護回路が働いた状態)。	—

必要なとき

故障かな?(つづき)

手元スイッチに次の表示が出たときは、内容を確認して対処してください。

表示	対処方法	ページ
	●ペダルを踏みながら、電源ボタンを押しませんでしたか? ⇒ペダルを踏まないで、電源ボタンを押し、電源を入れてください。 ※改善しない場合は、販売店に修理をご依頼ください。	44
	●手元スイッチと駆動ユニットの間の通信異常です。 ⇒販売店に修理をご依頼ください。	—
	●駆動ユニットのエラーを検出しています。 ⇒バッテリーを取り外して1分後に再度試してください。 ※改善しない場合は販売店に修理をご依頼ください。	—
	●駆動ユニットが過負荷のため、保護モードに入っています。 ⇒変速を「1」にし、軽負荷で走行してください。しばらくすると正常に戻ります。 ※(炎天下での乗車など)保護モードに入るとアシスト力が制限されます。そのまま走行していただいても問題ありません。表示が戻らない場合は販売店にご相談ください。	—
	●スピードセンサーが正しく信号を検出できていません。 ⇒電源を入れ直してください。直らない場合は販売店にご相談ください。 ※スタンドを立てた状態(両立スタンド装着車の場合)でペダルをこぐと、『S センサエラー /E2』が表示される場合があります。電源を入れ直すか、実際に走行すると元に戻ります。	—

お知らせ

- S センサエラー、M1・M2・B1・B2 オーバーヒートの複数エラーが発生した場合、それぞれ「S、M1、M2、B1、B2」と省略して表示する場合があります。

バッテリーについて

■バッテリーの種類

- この自転車には、メモリー効果の心配が無く、軽量で安全性に優れたリチウムイオンバッテリーを搭載しています。

お知らせ

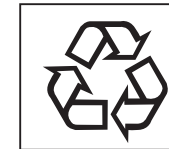
- バッテリーは標準品もしくは互換性のある当社製バッテリーを使用してください(☞P.66 ページ 互換性のあるバッテリーについては、販売店にご相談ください)。

■バッテリーの容量表示

- バッテリー本体の PSE マーク部に表示している容量表示数値(16 Ah) は電気用品安全法(PSE)において JIS C8711 で規定された試験での測定容量値を定格容量値として表示しています。
- バッテリーの PSE マーク部以外の部分、取扱説明書、カタログの容量表示数値は実走を想定した社内試験条件放電での平均値(16 Ah) を容量値として表示しています。

■バッテリーの交換・廃棄

- お買い求めの販売店にご相談ください。



大部分の素材がリサイクル可能です。貴重な資源を守るために、使用済みの充電式リチウムイオンバッテリーは、廃棄しないで販売店にお持ちいただくリサイクル協力店にご相談ください。弊社は小形充電式バッテリーの回収・リサイクルを実施する「一般社団法人 JBRC」に参画し、リサイクル活動を推進しています。リサイクル協力店をお探しの場合は下記ホームページよりご検索ください(<https://www.jbrc.com>)。

■交換時期の目安

- バッテリーは消耗品です。使いかたによっては3年程度で容量が半分以下になる場合があります。1回の満充電で走行できる距離が著しく短くなったり、走行できなくなったときはバッテリーの寿命ですので交換が必要となります。

お知らせ

- 700～900回の充放電で走行できる距離が購入時の約半分になります。
- 冬期約5℃以下や寒い環境下では、1満充電あたりの走行距離が短くなります。この現象はバッテリーの特性で、気温が高くなると走行距離は元に戻ります。
- バッテリー交換時期の目安と、製品の保証期間とは関係ありません。

■バッテリーの長期保管

- 電動アシスト自転車からバッテリーを取り外し、残量表示ランプ2～3個点灯の状態でご保管してください。
- 周囲気温が涼しい場所(15℃～25℃)でご保管してください。
- バッテリーの劣化を抑えるため、半年に1回は充電器に搭載し、残量が2～3個点灯になるまで充電してください。
- バッテリーの残量表示ボタンを押した場合、LEDランプが点灯しないときは、保護回路が働いています。バッテリーを充電器にセットし、充電状態にすると解除されます。
- 長期保管後再使用する場合、あらかじめバッテリー残量を確認し、不足しているときは、必ず充電してください。

お知らせ

- バッテリーが劣化する条件(以下のような条件では劣化が早まります)
 - ・放置期間が長く、使用頻度が低いとき
 - ・バッテリー残量が少ない状態で長期間放置したとき
 - ・高温になる場所で充電を繰り返したり、保管したりしたとき
- 劣化したバッテリーは必要以上の充電を行わないように、充電量(バッテリー容量)を制限し、お知らせする機能を搭載しています(☞P.58 ページ)。

バッテリーについて(つづき)

■特別保証期間および保証対象

1. 電動アシスト自転車用リチウムイオンバッテリーの特別保証期間

お買い上げ日から2年間

保証対象：電動アシスト自転車用バッテリーの材料、製造の不具合

保証条件：お買い上げ日から2年以内かつ満充電回数700回以下で、初期容量の50パーセント以下に劣化した場合

2. 保証期間内でも次の場合には原則として保証対象外とさせていただきます。

(イ) 保証対象外となる症状

(1) バッテリーの特性による使用環境、天候、積載条件などに起因する1満充電あたりの走行距離低下(一時的なものを含む)

- ・外気温が低い冬期に、1満充電での走行可能距離が夏期使用時より少なくなる現象
- ・上り坂が多い、発進頻度が高い、積載量を含む総重量が重いことによる1満充電での走行距離が短くなる現象など

(2) バッテリーの温度特性またはシステム保護のための一時的なアシスト力低下

- ・外気温が10℃以下の冬期使用時に、一時的にアシスト力が低下する現象
- ・外気温が高い夏期に、長い坂道を登ったり、重い荷物を積載して走行したりした場合、システムの保護のためにアシスト力が低下する現象など

(3) バッテリーの温度特性またはシステム保護のための充電の一時的な中断・待機の現象(回生充電も含む)

- ・気温0℃以下の低温、夏の直射日光が当たる場所や走行直後の高温時に充電した場合、充電の中断または待機になる現象など

※ 上記(1)～(3)のバッテリー特性について、詳しくは本書の「走行距離が短くなる環境 / 使いかた」、「バッテリーについて」をご確認ください。

(ロ) 誤った使用および不当な修理やバッテリーの分解、バッテリー内部部品の交換、バッテリーパック内部セルの直はんだなどの改造・加工をしたバッテリーを弊社電動アシスト自転車に使用されたことが原因で発生する故障および損傷

(ハ) 落下や水の浸入などの取り扱いの誤りによる故障および損傷

(ニ) 業務用(荷物運搬・新聞配達など)、営業用(レンタサイクルなど)、不特定多数で使用された場合の故障および損傷

(ホ) 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変および公害、塩害、ガス害など、異常電圧、指定外の使用電源(電圧、周波数)などによる故障および損傷

(ヘ) 保証書のご提示が無い場合

(ト) 保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入の無い場合、あるいは字句を書き替えられた場合

運搬／保管／廃棄について

運搬



警告



必ず守る

■自転車を運搬するときはバッテリーを外す
(自動車への積載時など、運搬の際に不意にペダルが押された場合にセンサーが感知し、車輪が回転し、巻き込まれてけがをするおそれ)



注意



禁止

■サドルを持ち上げて移動させない
(サドルが破損し、けがをするおそれ)

お知らせ

- リチウムイオンバッテリーは危険物であるため、基本的には公共交通機関への持込や飛行機や船での輸送は禁止されています。ただし、輸送・公共交通事業者によっては、制限を設けた上で、輸送(輸行)可能な場合があるため、事前に利用しようとする事業者にお問い合わせください。

保管

■保管場所(下記の場所に保管してください)

- 安定の良い所 ●風通しが良く、湿気の少ない所
- 雨つゆや直射日光が当たりにくい所

お知らせ

- バッテリーのケースや樹脂カバー類で白色や淡い色の物は、長期間の使用により変色や色あせが生じます。それを緩和するため、日の当たらない所での保管や「サイクルカバー(67ページ)」の使用をお勧めします。

■タイヤの管理

- 空気を適正空気圧まで入れてください(34ページ)。

■長期間保管する場合

- ごみやほこりが付くのを防ぐため、「サイクルカバー(67ページ)」の使用をお勧めします。
- 長期間、バッテリーを取り外したままにするときは、汚れやほこりが付かないように、「端子カバー(66ページ)」を装着することをお勧めします。(端子カバーを装着したまま走行しないでください。落下して破損するおそれがあります)

■バッテリーの保管

- バッテリーの保管については61ページをご覧ください。



注意



禁止

■台風など雨風が強い屋外で自転車を横倒しにして保管しない
(モーターやバッテリー内部に水が浸入し、異常動作によりけがの原因)



注意



必ず守る

■長期間保管した場合は乗るまえにワイヤ類の点検を行う
(ワイヤ類が固着してスムーズに動作せず、転倒につながりけがの原因)

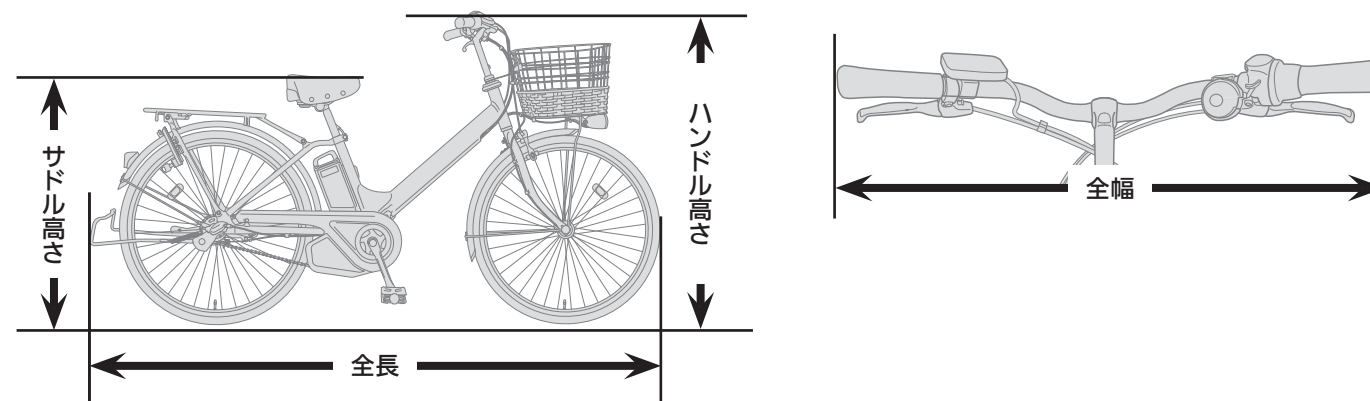
廃棄

- 自転車・充電器を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。
- 使用済みの充電式バッテリーは、お早めに販売店にお持ちいただきリサイクル協力店にご相談ください(資源有効利用促進法に基づき、貴重な資源を守りましょう)。

仕様

品名	ティモ・A	
品番	BE-FTA631	
寸法	全長	1,880 mm
	全幅	590 mm
	ハンドル高さ	985 mm ~ 1,025 mm
	サドル高さ	740 mm ~ 865 mm
	タイヤ	26 × 1-3/8 WO
	軸間距離	1,175 mm
総車両質量 (バッテリーを含む)	26.9 kg	
フレーム	V形	
ハンドルバー	オールランダー	
バスケット	標準装備	
リフレクター	バッテリーライト部・後どろよけ・前後車輪・ペダルに取り付け	
スタンド	両立スタンド	
リヤキャリア	標準装備(クラス 27)	
補助速度範囲 変速口の位置	24 km/h 未満	
充電 1 回の走行距離 (標準パターン)	59 km* (アシストモード:「パワー」使用時)	
モーター形式 定格出力	直流ブラシレスモーター 250 W	
補助力制御方式	踏力比例制御 - 磁歪式	
バッテリー	品番	NKY580B02(ブラック)
	種類	リチウムイオンバッテリー
	容量	25.2 V - 16 Ah** (28 cells)
	質量	約 3.1 kg
	ワット時定格量	404 Wh
充電器	品番	NKJ075Z
	形式	スタンド型
	電源	交流 100 V(50 Hz / 60 Hz)
	充電時間	約 4.5 時間
	質量	約 1.0 kg
	消費電力	約 260 VA
	待機消費電力	約 0.5 W
充電できるバッテリー	☎ 66 ページ 別売品(アクセサリ) バッテリー(交換用)をご覧ください	
変速機方式	内装 3 段シフト	
駆動方式	クランク軸上合力発生一体型	
制装置	前輪	サイドプル形キャリパーブレーキ
	後輪	ローラーブレーキ
照明装置	バッテリー式前照灯	
施錠方式	後輪サークル錠・ワイヤ錠	
乗車適応身長	141 cm 以上	
許容積載質量(乗員 + 荷物)	95.0 kg	
最大総質量 (自転車 + 乗員 + 荷物)	121.9 kg	

●寸法について



- 乗車適応身長は、1 人で乗車時、両足のつま先が地面に着地できる身長を指します(☎ 11 ページ)。
 - 寸法や質量などの値は、部品のはらつきや仕様変更により、誤差が生じる場合があります。
 - 仕様変更などにより写真、イラストや内容が一部実車と異なる場合があります。
 - この車種は、乗員体重を 65 kg で基本設計しています。従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、各部の消耗度合、劣化度合が大きくなります。走行距離も、『標準パターン』に対して短くなります。
- ※走行条件：環境温度は 20 ± 5 °C、無風の状態で、バッテリーは新品、バッテリーライトは消灯状態、車載重量(乗員と荷物の合計)は 65 kg、路面は乾燥した平滑な路面、タイヤ空気圧は標準空気圧。
- ※※バッテリー容量の表示値については 61 ページをご覧ください。

別売品(アクセサリ)

- 安全にご乗車いただくため、必ず当社の純正部品をご使用ください(当社の純正部品以外をご使用になり、不具合が生じた場合は、保証の対象外になります)。
- 別売品(アクセサリ)の品番・価格などは都合により変更することがありますので、取り付けの際に、販売店にご相談・ご確認ください(掲載している品番は2021年12月現在のものです)。

■幼児用自転車ヘルメット:

XS サイズ	S サイズ(バイザー付き)
NAY009 (マットブラック)	NAY015 (マットブラック)
NAY010 (マツレッド)	NAY016 (マツレッド)
NAY011 (マツネイビー)	NAY017 (マツカーキ)
NAY012 (マツカーキ)	NAY018 (マツオレンジ)
NAY013 (マツイエロー)	
NAY014 (マツオレンジ)	

- SG規格合格品です。

■直付けサドル:

NSS2233S (ブラウン)
NSS2234S (ブラック)

■フロント用バスケットカバー:

NSAR147-B (ブラック)
NSAR147-T (ブラウン)
NSAR147-G (グリーン×グレー)

■リヤバスケット:

NCB2136 (ブラック/樹脂/抜き無しタイプ/スリムキャリア用)	NCB1954 (ブラック/スチール/ワイヤタイプ)
NCB2137 (ブラウン/樹脂/抜き無しタイプ/スリムキャリア用)	NCB2024 (ブラウン/スチール/ワイヤタイプ)
SCB207AS (ブラウン/樹脂/メッシュタイプ)	NCB2190S (ブラック/スチール/太いロッドタイプ)
SCB208AS (ガンメタ/樹脂/メッシュタイプ)	NCB2184 (ブラック/樹脂/スムーズイン)
	NCB2185 (ブラウン/樹脂/スムーズイン)

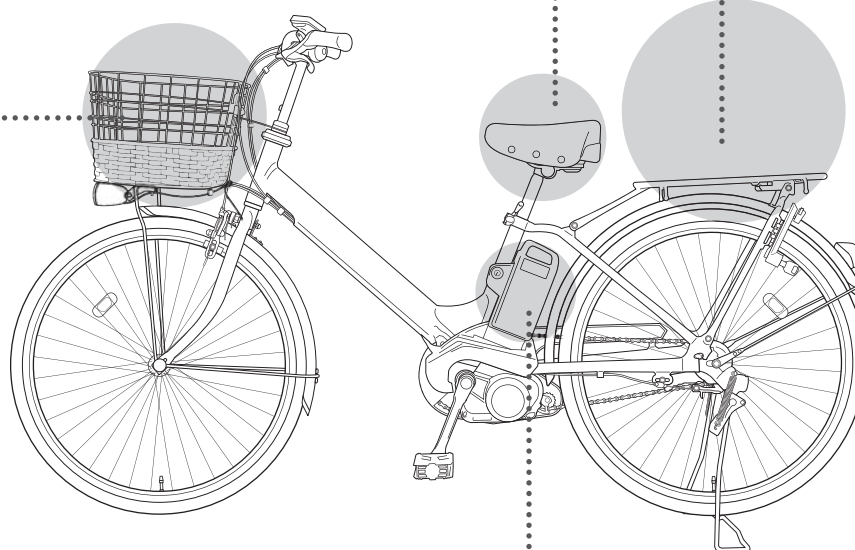
■リヤ用バスケットカバー:

NAR165 (ブラック/NCB2136/2137専用)	
NSAR148-B (ブラック)	SCB207AS/NCB2024/NCB2190S/ NCB2184/SCB208AS/NCB1954/ NCB2185 対応
NSAR148-T (ブラウン)	
NSAR148-G (グリーン×グレー)	
NAR188 (ブラック)	NCB1954/2024/2184/2185 対応
NAR189 (ブラウン)	

■チャイルドシート(後用):

NCD472S (ブラック/ヘッドレストスライドタイプ/パイプキャリア用)

- チャイルドシートを取り付ける場合は、必ずドレスガードを組み付けてください。
- チャイルドシートは、SG規格合格品です(お子様の乗車可能範囲は年齢1歳(12か月)以上、小学校就学の始期に達するまでの者、体重22kg以下で、身長115cm以下ですが、2歳(24か月)からのご使用を推奨)。



■急速充電器: NKJ075Z

■端子カバー: NAH413

■USB出力アダプター: NKU001

- 2015年モデル以前のバッテリーとは互換性がありません。

- バッテリー互換性(容量アップダウン)については、当社ホームページ <https://cycle.panasonic.com/> でご確認ください。

■バッテリー(交換用):

	16 Ah	12 Ah	8 Ah
ブラック	NKY580B02	NKY578B02	NKY576B02

■サイクルカバー:

SAR139 (リヤバスケット装着未対応仕様)
SAR140 (リヤバスケット装着有対応仕様)
SAR141 (チャイルドシート(後用)装着有対応仕様)

定期点検について



- 必ず守る**
- 定期点検と整備は、異音がしたり、異常を感じたとき、それ以外でも必ず6か月に1回(初回を除き)実施する
(異常や故障の発見がおくれ事故発生によるけがのおそれ)
⇒必ず、お買い求めの販売店または修理代行店で、自転車安全整備士・自転車技士(自転車組立整備士)により点検・整備をお受けください。
 - ・初回(2か月以内)の点検と整備
お買い上げ2か月ぐらいのご使用で、各部にねじの緩みが出ることがあります。
 - ・2回目以降(6か月ごと)の点検と整備
安全にご愛用いただくため、お買い求めの販売店または修理代行店に依頼し、必ず継続してお受けください。
 - ブレーキワイヤ・変速ワイヤは、外観上異常が無くても2年に1回は、交換する*
 - タイヤは、接地面(トレッド)の溝がなくなるまえに交換する*
 - ブレーキブロックは、溝の残りが、1mmになるまえに交換する*
 - ブレーキブロックは、リムにあった純正ブレーキブロック(当社品番: NBC064FF)に交換する*
※(ブレーキが利かなくなり、スリップのため転倒によるけがのおそれ)
⇒タイヤは仕様(☞P.64ページ)のタイヤ寸法にあったものと交換してください。
⇒交換は販売店に依頼してください。

点検と整備は、自転車の大切な健康診断です。
いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後、初めての初回(2か月以内)点検と、6か月ごとの定期点検の実施をお願いします(裏表紙の点検・整備チェックリストにて実施をお願いします)。
※定期点検・整備の料金は、お買い上げの販売店までお問い合わせください。

リチウムイオンバッテリー

愛情点検

●長年ご使用のリチウムイオンバッテリーの点検を!

	こんな症状はありませんか	<ul style="list-style-type: none"> ●充電中、異常な音ができる ●リチウムイオンバッテリーが異常に熱い ●こげくさいにおいがする 	ご使用中 止	このような症状のときは事故防止のため、自転車・充電器から外して、必ず販売店に点検をご相談ください。

自転車

愛情点検

●定期点検をし、安全走行をしましょう!

	こんな症状はありませんか	<ul style="list-style-type: none"> ●異常な音ができる ●がたつきや緩み ●車輪の振れ ●ブレーキの利きが悪い 	ご使用中 止	事故防止のため、必ず販売店に点検、整備を依頼してください。

自転車安全基準/BAAマーク/点検整備済TSマークのご紹介

この自転車は一般社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。

自転車安全基準

一般社団法人自転車協会が消費者の安全第一と環境負荷の低減を目的として定めた基準です。JIS(日本産業規格)をベースに、EN(ヨーロッパ規格)など海外の規格やヨーロッパの環境負荷物質に関する規制(RoHS指令)に基づいています。

BAAマーク



BAAマークが貼付された自転車は、安全で長持ちする自転車を目標に、一般社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。
万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は、製造・輸入業者の責任で補償いたします。
事故が発生した場合は、販売店にご連絡ください。
※一般社団法人自転車協会が直接利用者の皆様への補償をいたすものではありません。
「BAAマーク」は、自転車のバッテリーロックキー付近に貼り付けられています。
※BAA=自転車協会認証-BICYCLE ASSOCIATION (JAPAN) APPROVED

点検整備済TSマーク(保険付き)のご紹介



- 工場出荷時に貼り付けているTSマーク(☞P.27ページ)には、保険は付帯されていません。
- 傷害保険と賠償責任保険が付帯された保険付きTSマーク(左図)が別に取り付けられています。
- 保険付きTSマークは、自転車安全整備店(TSマーク取扱店)で点検整備を行い、基準に適合した自転車であることを確認した上で貼ることができます。
- 費用や保険内容など詳細は、お買い求めの販売店もしくは自転車安全整備店(TSマーク取扱店)にご相談ください。

お願い

- 点検 年 月 日 が記入されていない場合は、必ず、お買い求めの販売店に記入してもらってください。記入されていない場合は、補償されない場合があります。

使いかた・お手入れ・修理などは **まず、お買い上げの販売店へ** ご相談ください。

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	品番
電話 () -	車体番号
お買い上げ日 年 月 日	キー番号
	防犯登録番号

修理を依頼されるときは

「故障かな?」(57～60ページ)でご確認のあと、直らないときは、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

- 製品名 **電動アシスト自転車**
- 故障の状況 **できるだけ具体的に**

●保証期間中は、

- ※保証期間：お買い上げ日から本体1年間、ただし、バッテリーは2年間、駆動ユニット・フレーム・フロントフォークは3年間です(詳しい内容については、保証書をご確認ください)。
- ※保証対象かどうか(無償修理か有償修理か)は、お買い上げの販売店で自転車と保証書の内容を確認した上で、判断させていただきます。
- ※インターネットなど通信販売、懸賞、贈答品など販売形態に関わらず、保証書に記載の販売店にご相談ください。修理や補修部品の直接販売は弊社では行っていません。
- ※定期点検・整備の料金は、お買い上げの販売店までお問い合わせください。


●保証期間終了後は、有償修理となります。

- ※お買い上げの販売店にご相談ください。
- ※補修用性能部品の保有期間 **8年**
当社は、この電動アシスト自転車の補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後、8年保有しています。

■転居や贈答品などでお困りの場合も、**まず、お買い上げの販売店へ** ご相談ください。

それでも、お困りの場合は次の窓口にご相談ください。
ご使用の回線(ひかり電話など)によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

サポート総合窓口 <https://panasonic.jp/support>

商品に関する、 お客様ご相談窓口		電話 0120-781-603 (通話無料)	■左記電話番号がご利用いただけない場合
		※受付時間 9:00～18:00 (年中無休) ※携帯電話・PHSからもご利用になれます。	072-977-1603 (有料ダイヤル) ■FAX 072-977-5611 (有料ダイヤル)

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック サイクルテック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくための発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務などを委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。